

平成26年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成25年度対象)

平成26年11月

深谷市教育委員会



目 次

1 趣 旨	1 頁
2 点検評価の目的	1 頁
3 点検評価の対象及び方法	2 頁
4 深谷市教育振興基本計画の施策体系	3 頁
5 点検評価表及び重点施策評価表	
I 社会を生き抜く力の育成	
(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	4 頁
(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	6 頁
(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	10 頁
(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	14 頁
(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	16 頁
(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	18 頁
II たくましく生きるための心と体の育成	
(1) まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	22 頁
(2) いじめ・不登校の防止	26 頁
(3) 生徒指導の充実	28 頁
(4) 人権を尊重した教育の推進	30 頁
(5) 健康の保持増進	32 頁
(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	34 頁
III 信頼される学校教育の推進	
(1) 信頼される教職員の育成	36 頁
(2) 子どもたちの安心・安全の確保	40 頁
(3) 学習環境の整備・充実	42 頁
IV 家庭・地域の教育力の向上	
(1) 家庭の教育力の向上	44 頁
(2) 地域の教育力の向上	46 頁

V	生涯を通じた学習活動の推進	
(1)	学習機会の提供と学習活動の支援	50頁
(2)	活動施設の整備・充実	52頁
(3)	図書館の整備・充実	54頁
VI	深谷らしい文化の創造	
(1)	渋沢栄一翁の顕彰	56頁
(2)	伝統文化の保存・継承と活用	58頁
(3)	文化・芸術活動の活性化	60頁
VII	生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	
(1)	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	62頁
(2)	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	64頁
6	結びに	66頁
7	資料	
(1)	深谷市教育振興基本計画 概要版	69頁
(2)	平成25年度 深谷市教育委員会重点施策	72頁

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務執行に関する点検評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)抜粋
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、平成24年3月に策定された立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「深谷市教育振興基本計画」という。）に位置づけられています。

このため、深谷市教育振興基本計画に位置づけられた25施策（中項目）を評価単位として、平成25年度の取組について点検評価を実施しました。

点検評価表のうち、総合評価は、「SABC」評価とし、区分の目安として、

- S：計画以上に進んでいる
- A：ほぼ計画通りに進んでいる。
- B：あまり進んでいない。
- C：まったく進んでいない。

としました。

この区分の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、平成23年度からの実績値の推移を表で示しました。

また、「意見・提言」の欄には、教育に関し学識を有する方（以下「点検評価者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとに示しています。

さらに、各点検評価表に重点施策評価表を添付し、各施策における平成25年度の重点施策及び評価を示しています。

4 深谷市教育振興基本計画 施策体系

基本目標（大項目）	施策（中項目）	点検評価表作成課	重点施策評価表作成課
I 社会を生き抜く力の育成	(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	学校教育課	教育総務課 学校教育課
	(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	学校教育課
	(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	学校教育課
II たくましく生きるための心と体の育成	(1) まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(2) いじめ・不登校の防止	学校教育課	学校教育課
	(3) 生徒指導の充実	学校教育課	学校教育課
	(4) 人権を尊重した教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(5) 健康の保持増進	学校教育課	教育施設課 学校教育課
	(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	学校教育課
III 信頼される学校教育の推進	(1) 信頼される教職員の育成	学校教育課	学校教育課
	(2) 子どもたちの安心・安全の確保	学校教育課	学校教育課
	(3) 学習環境の整備・充実	教育総務課	-
IV 家庭・地域の教育力の向上	(1) 家庭の教育力の向上	生涯学習課	生涯学習課
	(2) 地域の教育力の向上	生涯学習課	学校教育課 生涯学習課
V 生涯を通じた学習活動の推進	(1) 学習機会の提供と学習活動の支援	生涯学習課	生涯学習課
	(2) 活動施設の整備・充実	生涯学習課	教育施設課 生涯学習課
	(3) 図書館の整備・充実	図書館	図書館
VI 深谷らしい文化の創造	(1) 渋沢栄一翁の顕彰	生涯学習課	文化振興課
	(2) 伝統文化の保存・継承と活用	生涯学習課	文化振興課
	(3) 文化・芸術活動の活性化	生涯学習課	文化振興課
VII 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	(1) スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	生涯学習課	生涯学習課
	(2) スポーツ・レクリエーション活動の活性化	生涯学習課	生涯学習課

5 点検評価表及び重点施策評価表

基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

I-1

施策名	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進		点検評価表作成課	学校教育課				
施策の方向性	○幼稚園と保育園において家庭との連携・協力した幼児教育を推進するとともに、教職員に対する研修を充実させます。 ○子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、小学校との「なめらかな接続」を推進します。 ○公共施設としての幼稚園、保育園の機能を活用した子育ての支援策の充実に取り組みます。							
施策に関連する主な取組	○質の高い幼児教育の推進		○幼保一体化への対応					
	○幼稚園教員や保育士の資質向上							
	○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進							
	○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実							
指標名	「子育てひろば」へ参加しての「活動を通しての満足度」の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	事業に参加してのアンケート調査「非常に満足」と「満足」を合わせたの回答率	89.0%	99.1%	98.6%				
		現状値 (平成23年度)		89%	→		目標値 (平成29年度)	95%

平成25年度重点施策	○幼・保・小・中連絡協議会の実施 ○幼保一体化への適切な対応	
平成25年度実績	○質の高い幼児教育の推進○幼稚園教諭や保育士の資質向上 ・幼稚園教諭研修会（4月、5月、6月、7月、8月、10月、12月）を実施した。 ○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進 ・幼・保・小・中連絡協議会（8月、2月）を実施した。 ○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実 ・子育てひろば…全体会4回と幼稚園会場30回（10園×3回）を開催した。 ○幼保一体化への対応 ・深谷市総合振興計画 後期基本計画に新規事業として、「幼児教育と保育を一体的に提供する（仮称）ふかやこども園のモデル園の選定・実践」が位置づけられた。 ・保育園を担当する部署と「幼保一体化検討プロジェクトチーム」を設置し、幼保一体化に向けた協議を行った。 ・市立幼稚園保護者等を対象に「市立幼稚園のあり方懇談会」を開催し意見交換を行った。	
総合評価	S	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・幼稚園教育の質の向上と安定化を図る。 ・子育てひろばを、幼稚園全園（12園）で開催する。 ・子育てひろばの幼稚園会場での開催回数を増やす。	
評価コメント	・子育てに不安を持つ保護者が増加しているなか、子育てひろばの実施は、同じ年齢のお子さんを持つ保護者と話をし横の繋がりを持つことができたり、教育研究所の専門員や臨床心理士より子育ての講話を聴くことで悩みや不安の解消の一助になっていると考える。また、主任児童委員や地域のボランティアの方が関わることで身近なところで子育て支援を行うことができた。 ・子育てひろば事業に満足した人の割合や幼稚園が好きだと答えた人の割合が現状で目標値を上回っているのは、家庭と連携を図るとともに幼稚園教育の充実に努め、教育の質の向上や現代社会の課題に対応した教育の推進を図ることができたためと言える。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。	

意見・提言	・成果指標の子育て広場の満足度は98.6%と非常に高い評価を得ており、大変素晴らしい。今後は、課題にあるように、幼稚園全園での実施を期待したい。 ・幼保一体化は、非常に難しい取組だが、国の動向をよく把握して進めて欲しい。 ・施策全般にわたり、意欲的に取り組んでおり評価できる。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	幼・保・小・中連絡協議会の実施	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】0歳から15歳までの子どもを一貫して育て、この時期の教育について、市内幼稚園、保育園及び小・中学校関係者による研究協議を行い、幼・保・小・中のなめらかな接続と教育の充実・発展を図る。		
平成25年度の実績	○年2回実施 全体研修会及分科会実施(市内中学校区10ブロックに分かれ、幼・保・小・中連携について協議) ・第1回 平成25年8月2日(金) 全体会:事例発表「通級指導教室より」、幼・保・小・中連携についてアンケートの結果報告 分科会:各園、学校ごとの目指す子ども像の共通理解と支援について(スローガンづくりと身に付けさせたい力) ・第2回 平成26年2月26日(水) 全体会:講義「就学支援の在り方」等 分科会:今年度の幼・保・小・中連携の成果と課題、来年度の中学校区幼・保・小・中連携の計画について		
	指標名	実績値	指標別コメント
	実施回数	2回	0歳から15歳までの子どもを一貫して育て、幼・保・小・中のなめらかな接続のため、半期ごとの開催を実施する。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	0歳から15歳までの子どもを一貫して育てるため、幼・保・小・中連絡協議会を持つことにより、地域で育つ子どもの教育や保育について、共通理解を図ることができた。また、地域の園・学校との連携による行事参加や教職員のコミュニケーションを図ることができたため評価を「現状維持」とした。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	幼保一体化への対応	担当課	教育総務課
概要	幼稚園と保育園の機能を一体化することについて、国の動向に注視しつつ、適切に対応していく。		
平成25年度の実績	・深谷市総合振興計画 後期基本計画に新規事業として、「幼児教育と保育を一体的に提供する(仮称)ふかやこども園のモデル園の選定・実践」が位置づけられた。(後期基本計画の目標年度は平成29年度) ・保育園を担当する部署と「幼保一体化検討プロジェクトチーム」(内部組織)を設置し、幼保一体化に向けた協議を行った。 ・市立幼稚園保護者、園長、教務主任(教務)を対象に「市立幼稚園のあり方懇談会」を開催し、意見交換を行った。 【国の動向】国(内閣府)のホームページによると、平成25年度は有識者で構成される「子ども子育て会議」において、認定こども園に関連する各種基準等の検討がなされた。(なお、認定こども園に関する基準は平成26年4月に国から示された)		
	指標名	実績値	指標別コメント
	幼保一体化検討プロジェクトチーム会議の開催回数	4回	幼保一体化に向けた検討・協議を重ね、報告書(提言書)を作成した。
市立幼稚園のあり方懇談会の開催回数	4回	市立幼稚園の抱える現状(諸課題)を説明し、保護者等から意見交換を行うことができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	3	市立幼稚園は、現在、園舎の老朽化・非耐震、園児数の減少、正規職員の不足などの課題を抱えている。今後の市立幼稚園のあり方については、ふかやこども園のモデル園の選定・実践に向けて関係部署とともに着実に進めていくとともに、諸課題の解決のため市立幼稚園全体の方向性を速やかに決定していきたいことから、評価を「拡充・重点化」とした。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

I-2

施策名		未来を切り拓くための確かな学力の育成		点検評価表 作成課		学校教育課			
施策の方向性		○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に応用力や発展的な学力を含めた確かな学力を身に付けさせます。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援します。 ○児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進します。							
施策に関連する 主な取組		○「青淵学びの郷づくり」の推進		○きめ細やかで質の高い指導の充実					
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進		○教育研究所の資源活用					
		○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善							
		○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進							
指標名		埼玉県小・中学校学習状況調査							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内全小学校5年、 中学校2年のペー パーテストの平均正 答率(%)	市平均	76.4%(小5) 63.5%(中2)	75.1%(小5) 72.3%(中2)	75.0%(小5) 66.9%(中2)				
		県平均	75.3%(小5) 62.0%(中2)	74.6%(小5) 70.1%(中2)	72.1%(小5) 65.1%(中2)				
		現状値 (平成23年度)	県平均をやや上回る		→		目標値 (平成29年度)	県平均正答率を2ポイント以上、上回る	

平成25年度 重点施策	○中学生補習学習運営事業 ○こころざし深谷塾(国際塾・科学塾)の推進 ○学力向上推進事業 ○少人数指導事業
------------------------	--

平成25年度 実績	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・中学生補習学習運営事業の実施 全10中学校で実施し、参加者296名 ・延べ256名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 ・こころざし深谷国際塾の実施 参加児童生徒数 小学生12名、中学生 9名、合計21名 ・こころざし深谷科学塾の実施 参加児童生徒数 小学生22名、中学生22名、合計44名 ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ・深谷市チャレンジの実施 ・市内全学校実施 小学校19校、中学校10校 ・参加児童生徒数 小学校6年生1,394名、中学校3年生1,313名 ・実施時期 小学校 第1回6月中旬、第2回8月下旬 中学校 第1回8月下旬、第2回10月中旬 ○きめ細やかで質の高い指導の充実 ・少人数指導事業の実施 全19小学校にアシスタントティーチャー、教科支援エキスパートを各1名ずつ配置した。
----------------------	--

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	平成25年度は、市内全ての小・中学校で深谷市チャレンジを実施した。今後は、内容の充実や実施方法(採点・データ処理)について検討する。
-----------	--

評価コメント	・平成25年度は、深谷市チャレンジを全小・中学校で実施し、アンケート結果では平成24年度にモデル校で実施した時よりも、児童生徒の学習意欲に関する数値が向上した。 ・小・中学校で行った埼玉県小・中学校学習状況調査では、県平均を上回った。 ・アシスタントティーチャー及び教科支援エキスパートの配置により、担任が児童生徒と向き合う時間を確保し、一人一人に寄り添った教育を進めることができ、教育的効果が大きかった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	--

意見・提言	・成果指標の数値であるペーパーテストの平均正答率は、小学校5年生、中学校2年生共に県平均を上回っており、高く評価できる。 ・深谷市チャレンジは、深谷市の学力の現状分析を行い、それに応じた学力向上の取組で、非常に素晴らしい。是非とも継続して欲しい。 ・中学生補習学習運営事業は、通塾していない生徒の学力向上に効果的な取組で素晴らしい。学習の支援者として、地域の退職教諭の活用も検討して欲しい。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	中学生補習学習運営事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】大学生ボランティアによるステップアップレッスンを推進し、生徒の基礎学力の向上を図る。			
平成25年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生の中で、学習に不安を感じている生徒の学力を保障するために全10中学校で中学生補習学習(ステップアップレッスン)を実施した。 ・296名の参加者のうち、通塾していない生徒が、141名(参加者の47.6%)であった。 ・全10中学校で、153回実施し、延べ2,342名が参加した。 ・延べ256名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
	補習実施回数	153回		各中学校とも、年度当初、年間の学習日を決め、計画的に行ったため、目標の回数(150回)が実施できた。
	1回あたりの参加生徒数の平均	15.3人		通塾していない学習に不安を感じている生徒の学習支援につながった。
補習学習1回当たりのコスト	5,944円		安定した大学生ボランティアの確保に努める必要がある。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>中学3年生の中で学習に不安を感じている生徒の学力を保障することが目的である。学びたいと希望した生徒の47.6%が通塾していない生徒であり、その生徒たちへの支援が行われたことにより、意図した成果は十分に達成できたと考える。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

重点施策評価表

重点施策名	ころざし深谷塾(国際塾・科学塾)の推進		担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】ころざし深谷塾を実施し、児童生徒の国際性や科学技術への関心・意欲を高める。			
平成25年度 の実績	<p>○ころざし深谷国際塾 国際社会に対する児童生徒の知的好奇心に応えるとともに、日本及び諸外国の伝統や文化等について深い理解をもち、国際社会において信頼され、世界の平和と発展に貢献できるリーダー育成を目的とする。 参加者:小5～中2 小学生12名、中学生9名、合計21名参加 内 容:第1日目:英会話体験、国際協力・相互依存に関する講義、ディスカッション等 第2日目:JICA地球ひろば訪問(施設見学、講話等) 第3日目:英語による体験発表会(大雪のため中止) 成 果:参加者の意欲が高まり、国際協力・相互依存の必要性についての理解が深まった。</p> <p>○ころざし深谷科学塾 科学的な体験学習を通して、子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め学力の向上を図る。本年度は、風力・太陽光発電啓発事業との連携も図り、自然エネルギーをテーマとした体験型の学習を行った。 参加者:小5～中2 小学生22名、中学生22名、合計44名(希望者48名) 内 容:第1日目<平成25年8月22日(木)> ・深谷市立教育研究所にて風力太陽光発電に関する講義、実験・実習を行った。 第2日目<平成25年8月23日(金)> ・群馬県にある①吉岡エネルギーパーク、②ソフトバンク榛東ソーラーパーク、 ③高浜発電所を訪問し、施設見学、講義を実施した。 成 果:参加者の科学技術等に対する興味関心は非常に高く、意欲的に説明を聞いたり、体験したりしていた。参加者の満足度は非常に高かった。(アンケートより)</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	参加希望率 (希望者/定員)	98.6% (69人/70人)	参加者には事前に課題を提示している。難しい課題にかかわらず、定員数と近い参加希望者がある。また、毎年参加するリピーターもいる。	
担当課 評価	評価区分 2	評価コメント 毎年、実施内容を見直して、より有意義な活動になるように工夫改善している。今後も更に充実した活動を行い、渋沢栄一翁の志を受け継ぐ次代を担う人材育成に努めていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	学力向上推進事業	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】深谷市チャレンジ(算数・数学、英語)を実施し、学習意欲の向上を図る。		
平成25年度の実績	<p>○深谷市チャレンジ 深谷市チャレンジは、学力の重要な要素の1つである「学習意欲」の向上を目指し、目標をもって学習に取り組むことができる児童生徒の育成を図ることを目的として実施する。 ※平成25年度は、市内全小・中学校で実施 【対象学年・教科】 小学校第6学年…算数 中学校第3学年…数学、英語 【実施時期】 小学校 第1回 6月中旬 第2回 8月下旬 中学校 第1回 8月下旬 第2回 10月上旬 【成果】第2回深谷市チャレンジ実施後の児童生徒アンケート結果より 学習に対する意欲が高まった(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合 小学校(算数)90.2%、中学校(数学)83.6%、(英語)88.8%</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	深谷市チャレンジ実施校	100% (29校/29校)	平成25年度は全小・中学校で実施
	深谷市チャレンジ実施後児童生徒アンケート	小:90.2% 中:86.2%	アンケート結果より、「学習に対する意欲が高まった」と回答した児童生徒の割合。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	平成26年度も、市内全小・中学校で、深谷市チャレンジを実施する。問題内容の充実、実施方法を検討し、児童生徒の学習意欲のさらなる向上に努める。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	少人数指導事業	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】各小学校に1名のアシスタントティーチャーを配置し、個に応じたきめ細かな指導や基礎学力の定着、学習習慣の育成を図る。また、各小学校に1名の教科支援エキスパートを配置し、小学校から中学校への進学時に生じるいじめや不登校などの増加を未然に防ぐとともに、より専門的な指導により教科指導の充実を図る。		
平成25年度の実績	<p>・アシスタントティーチャーが、主に低学年のチームティーチングを行うことにより、個に応じた学習支援が充実した。さらに、基本的な生活習慣の定着にも効果が現れていると、学校からの意見が寄せられている。 ・教科支援エキスパートは、主に高学年の音楽科、家庭科の専科授業を実施し、より専門的な学習指導を行うことができた。配置により、担任に余裕が生まれ、児童一人一人に寄り添った教育を進めることができ、教育的効果が大きかったと、学校からの意見が寄せられた。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	アシスタントティーチャー、教科支援エキスパートの小学校への配置状況	100% (29校/29校)	アシスタントティーチャー19人、教科支援エキスパート14人を任用し、市内全19小学校に各1名ずつ配置することができた。
	配置校の活用満足度	100% (29校/29校)	アンケート調査の結果、配置による効果は、「大変効果があった」、「効果があった」との回答が100%と各学校からの要望も高い。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	アシスタントティーチャーは主に低学年におけるきめ細かな指導、教科支援エキスパートは主に高学年の専科指導の充実に努めている。各学校からは配置に対する高い満足度と継続の要望が寄せられている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名	郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	点検評価表作成課	学校教育課
施策の方向性	○伝統と文化を尊重し、日本人・深谷人としての誇りを持ち、わが国と郷土深谷を愛する態度を養います。 ○国際理解教育を推進するとともに、小学校外国語活動においてコミュニケーション活動の更なる充実を図り、早期外国語教育を推進します。併せて、中学校への「なめらかな接続」を図り、中学校の英語教育を充実します。 ○帰国・外国人児童生徒等への日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行います。		
施策に関連する主な取組	○伝統と文化を尊重する教育の推進		
	○国際性を育む教育の推進		
	○小学校段階からの外国語活動の推進		
	○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実		

指標名	生徒の英語学習に対する積極的な態度							
成果指標	指標の説明	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値
	授業で積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしているかという質問に対する回答率	76.0%	82.2%	84.7%				
		現状値 (平成23年度)	中学生 76%		➡	目標値 (平成29年度)	中学生 85%	

平成25年度重点施策	○国際化教育推進事業 ○教育研究開発(英語教育関係)の推進
-------------------	----------------------------------

平成25年度実績	○国際性を育む教育の推進 ・市内各小・中学校に外国語指導助手(ALT)16名を配置し、小学校3年生～中学校3年生が、週に1回、ALTとの授業を受けた。 ・夏休み子ども英会話体験教室を実施し、小学校3～6年生が、4日間で、のべ252名参加した。 ○小学校段階からの外国語活動の推進 ・文部科学省から教育課程の特例を受け、小学校3年生から週1回外国語活動を実施した。 ・市内全小・中学校が文部科学省の指定を受け、教育研究開発を行った。 ・深谷市英語教育小中一貫モデルプランを策定し、英語教育の充実を図った。 ○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実 ・日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(5名)を、小学校6校、中学校5校に配置した。
-----------------	---

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	ALTについては、労働派遣契約上の制約で、7月～9月の3ヶ月間、クーリング期間を取らざるを得ない。今後の法改正等を注視していく必要がある。日本語指導を必要とする外国籍児童生徒は増加傾向にあり、日本語指導員を増員する必要があるが出てきている。
-----------	--

評価コメント	学校が必要とするALT及び日本語指導員を適切に配置することができた。また、ALTの配置や教育研究開発の成果が、中学生の「英語でコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度」に表れている。今後も、更に児童生徒の英語によるコミュニケーション能力向上にむけて取組を推進していく。以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	--

意見・提言	・ALTの配置や小・中全校での文科省の研究委嘱などの取組により、英語の学習を楽しんでいる児童の割合が、95.3%と非常に高い割合となっており、素晴らしい。 ・小学生に英語を楽しんでいると感じてもらうのは、英語学習の始期には重要なことで、上手なスタートができています。先生方の負担も大きいと思うが、是非このまま続けて欲しい。 ・市費による日本語指導員の配置は、素晴らしい取組である。 ・成果指標の実績値の上昇からも、施策の効果が確認できる。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	国際化教育推進事業		担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】全小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し英語教育等の充実を図る。			
平成24年度の実績	<p>○外国語指導助手の配置 【採用人数】16名 【雇用形態】労働派遣契約 【雇用期間】第1期(平成25年4月～6月) 第2期(平成25年10月～平成25年3月) 【実施状況】</p> <p>○市内全公立小・中学校に、学校規模に応じて、週当たり1～5日ALTを配置した。 ○小学校3～6年生は、週に一度の外国語活動の時間に、担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。中学校では、全ての生徒が週に一度以上は教科担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、配置した。 ○本物の英語に触れることで、子どもたちの国際性が高まり、英語によるコミュニケーションを図ろうとする意欲が伸びている。 ○国も、義務教育段階の英語教育の推進を図っている。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	ALTの年間授業時間の目標値を達成した割合	85.3%	目標値の授業時間は、1日当たり61.2時間(16名分)とする。平成25年度は170日の期間で、8,879時間の授業を行った。	
	外国語(英語)の学習を楽しんでいる児童の割合(小3～小6)	95.3%	学年によって割合は違うが、小学校6年生でも90%を超えている。全国的なデータと比較すると、深谷市では英語好きの子どもが非常に多い。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	ALTによる授業を必要とする学級数(282学級、29校)から、最も効率よく運営するための最少人数(16名)を算出し、全ての学校に配置することができた。また、英語好きな児童生徒が非常に多いことから、ALTの存在と彼らを活用する学級担任の指導技術がうまくかみ合っていると見える。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	教育研究開発(英語教育関係)の推進	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 小学校3年からの早期外国語教育を推進し、児童生徒の国際性を育む。		
平成25年度 の実績	<p>○教育課程の特例 文科省から研究開発の指定(全国で2例:深谷市・岐阜県多治見市)を受け、教育課程の特例を設けている。このため、他の自治体と違い、深谷市では小学校3年生から週1回、外国語活動を行っている。</p> <p>○深谷市英語教育一貫教育プランの作成 市内全小・中学校の標準的な指導モデルを作成し、各学校の特色を生かしながら外国語(英語)の授業を行っている。深谷市の強みは、市内の全小・中学校が研究指定を受けていることである。(単一の学校が研究指定を受けても、成果が広がりにくいというケースが多い)</p> <p>○指導法研究会の開催 ・小学校外国語活動指導法集中研究会の実施(平成22年度からの継続事業) 市内全小学校教員を対象として、指導法の研究会を実施している。このことにより、英語に対する苦手意識を克服し、指導技術の向上を図ることができた。参加者の満足度は、ほぼ100%に達している。</p> <p>・中学校英語教育指導法研究会の実施 大学教授等を招いて、最新の英語教育に関する講義を実施している。併せて、英語指導に係るワークショップを行い、市内英語科教員、約35名の指導技術の向上に努めている。</p> <p>・中学校区別授業研究会の実施 市内を10ブロックに分けて、授業研究会を実施した。小・中学校教員が、校種を越えて授業を参観し、研究協議を行う中で、教員の立場からの小・中連携を深めることができた。</p> <p>○深谷市チャレンジの実施 市内10校の中学校3年生を対象に実施した。英語に対する関心・意欲を高めることを目的としている。</p> <p>○こころざし深谷国際塾の実施 渋沢栄一翁の心を受け継ぎ、次代を担う人材育成を目的とする。対象は小学校5年生から中学校2年生までの希望者。平成25年度は、小学生12名、中学生9名、合計21名が参加した。JICA(国際協力機構)と連携して実施している深谷市独自の取組である。</p> <p>○夏休み子ども英会話体験教室の実施 伸びる意欲のある子どもをさらに伸ばすことを目的としている。対象は小学校3~6年生の希望者。夏季休業期間中に4日間実施し、平成25年度は、のべ252名が参加した。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	学級ごとのALT配置回数の割合	86% (30/35時間)	配置していない5時間分は、労働派遣のクーリング期間のため。
	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	88.4%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。
積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(中1)の割合	85.9%	小学校6年次よりも若干数値が上がっている。研究開発の取組により、小・中学校の接続がうまくいっていると言える。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	市内全小・中学校が研究指定を受けることによって、成果を全ての学校が共有することができている。このことから、全ての学校の指導力の向上を図ることができている。その結果として、中学校段階で学力向上の兆しが見え始めている。今後も、更に取組を充実させていきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

I-4

施策名	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	点検評価表 作成課	学校教育課					
施策の方向性	○子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成します。 ○児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについての理解を深めます。 ○将来にわたって豊かな暮らしを実現する持続可能な社会の構築を目指した環境教育を推進します。							
施策に関連する 主な取組	○科学技術教育の推進 ○情報教育の推進 ○環境教育の推進 ○社会的課題に対応する教育の充実							
指標名	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	国の行うICT調査における教員の指導力についての状況	87.7%	91.3%	89.5%				
		現状値 (平成22年度)		84%	➡	目標値 (平成29年度)		100%

平成25年度 重点施策	○小・中学校ICT整備事業 ○風力・太陽光発電啓発事業		
平成25年度 実績	○科学技術教育の推進 ・市内全小・中学校において、小学校6年生及び中学校3年生に対して、風力・太陽光発電に関する啓発授業を実施することができた。 ○情報教育の推進 ・小学校7校、中学校10校の校務用コンピュータの入替を行い、ICTを活用して教材準備等ができる環境を充実させた。 ・小学校8校、中学校10校の書画カメラの入替を行い、視覚的に教材等を提示できる環境を充実させた。 ・ICTを活用した授業が小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ○環境教育の推進 ・学校緑化を推進するとともに、温暖化防止や節電対策として「緑のカーテン」を市内各幼稚園、小中学校で実施した。 ○社会的課題に対応する教育の充実 ・小・中学校の教職員を対象に、情報モラルに関する研修、21世紀型スキルの育成についての研修を行った。 ・校務支援システムにより、教職員1人あたり年間で46.4時間の負担軽減となると回答しており、子どもと向き合う時間の確保につながった。		
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない	
課題	文科省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現に向け、今後も機器の入れ替えに伴う整備を継続していく必要がある。		
評価コメント	コンピュータ教室、普通教室、職員室のICT機器の整備は、ほぼ計画通りに進んでいる。臨時的任用教員が多くなっていることで成果指標はやや下がっているが、研修を充実させることにより、教職員が授業でICTを活用する場面は増えている。以上のことから、総合評価は「A」とする。		

意見・提言	・コンピュータの整備率は、県内40市の中でトップとなっており、ICTを活用して指導できる教員の割合も89.5%と、ハードとソフトが一体となって頑張っており、全国的にも誇れるものである。 ・風力・太陽光発電は、エネルギー教育において、火力・原子力以外の発電の在り方を勉強するという意味でも、非常に評価できる。 ・今後は、タブレット端末による授業の普及を見据えた情報教育も検討して欲しい。 ・情報機器の更新は大変重要なので、今後も続けて欲しい。 ・校務支援システムにより、先生が子どもと向き合う時間を増やせたことは素晴らしい。今後はこれを更に進めて欲しい。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校ICT整備事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】ICT環境の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の向上を図るとともに、教師が教科指導等においてICTを活用することにより、学習活動を充実させる。さらに、教職員用コンピュータに校務支援システムを導入し、教員の負担軽減による子どもと向き合う時間を確保する。			
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校7校、中学校10校の校務用コンピュータ及び職員室のネットワーク機器の入替を行った。それに伴い、校務支援システムを更新し、指導要録や調査書等を電子化した。 ・小学校12校の職員室用プリンタ及び管理職用コンピュータの入替を行った。 ・小学校8校、中学校10校の書画カメラの入替を行った。 ・各小・中学校ホームページの更新頻度が飛躍的に向上し、アクセス数が平均1日500件を超えた。 ・各小・中学校のホームページに「緊急連絡サイト」を設置し、双方向での連絡手段を可能にした。 ・ICTを活用した授業が小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ・校務支援システムにより、教職員1人あたり年間で46.4時間の負担軽減となると回答しており、子どもと向き合う時間の確保につながった。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	PC1台あたりの児童生徒数	4.2人/台	コンピュータの台数では、県内40市の中でトップの整備率となっている。県は8.4人/1台である。	
授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	89.5%	普通教室のICT環境を整備後、研修等を実施し、年々向上している。県は70%である。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成26年1月にリース契約分が全て終了し、買取による整備のみとなった。文科省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現に向け、今後も機器の入れ替えに伴う整備を継続していく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	風力・太陽光発電啓発事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】風力・太陽光発電について追求する活動を通して、児童生徒の自然エネルギーに対する興味・関心を高め、初歩的な見方や考え方を養う。			
平成25年度の実績	<ol style="list-style-type: none"> 1 全小・中学校の理科で風力・太陽光発電の啓発授業を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> (1)方法 <ol style="list-style-type: none"> ア 理科主任及び理科支援員対象の研修会を開催し、教材の使用方法についての指導を行った。(教育委員会が作成した指導案に基づいて) イ 各校1週間ずつローテーションで教材を活用した。 ウ 小学校6年生と中学校3年生は必修として、「風力・太陽光発電」についての授業を行った。(小学校は理科支援員とのチーム・ティーチング) 2 風力太陽光発電啓発モデル校を設置した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) モデル校は、深谷小学校と花園中学校とした。 (2) 屋上に設置された「風力太陽光システム」から、発電量や風向・風速・気温等データを蓄積した。 (3) 理科授業や教員研修等で、データを活用した授業を実施した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	啓発授業の実施校	100% (29校/29校)	市内全小・中学校において、小学校6年生及び中学校3年生に対して、風力・太陽光発電に関する啓発授業を実施することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	実施初年度であったが、教員研修会なども実施し、啓発授業を全小・中学校の小学校6年生及び中学校3年生で実施することができた。今後も、事業の定着をさらに進められるよう指導方法の工夫を図っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	高い志をもつキャリア教育の推進	点検評価表 作成課	学校教育課
施策の方向性	○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進します。 ○将来働くことについて意欲や関心が持てるように、学校・地域・企業などが一体となって、実際の職場での体験活動を推進します。		
施策に関連する 主な取組	○発達段階に応じたキャリア教育の充実 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ○職場体験活動の充実		

成果指標	指標名	「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合						
	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合を併せた回答率	77.0%	81.0%	81.3%				
		現状値 (平成23年度)	中学生 77%		→	目標値 (平成29年度)	中学生 85%	

平成25年度 重点施策	○小・中学校のキャリア教育の充実	
平成25年度 実績	○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。 ・産業祭への参加 深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った。 ・中学校1年生での職業調べ、2年生での上級学校調べまたは訪問、3年生での高校説明会への参加といった活動を全校で実施した。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ・各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。 ・中高連絡協議会の実施 深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。 ○職場体験活動の充実 ・中学生社会体験チャレンジの実施 全中学校が、2年生において実施した。事前事後の活動を含め5日間実施し、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・小学校段階、中学校段階、それぞれキャリア教育の取組が行われているが、それを系統的に整備する必要がある。 ・社会体験チャレンジにおいては、事業所の確保が課題となっている。	
評価コメント	・社会体験チャレンジは、発達段階を考慮して中学2年生で実施した。実施後の生徒や保護者の感想、また、各事業所からのアンケートから、望ましい職業観や勤労観が育成されたことがわかった。 ・成果指標においても、目標値には届いていないが、現状値を0.3ポイント上回ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体験チャレンジは、中学校2年生での実施に移行したこともあり、生徒たちは様々なことを感じ、学んでいるはずなので、このまま続けて欲しい。 ・社会体験チャレンジ参加実人数が1,324人となり、前年から大幅に増加しており、素晴らしい。 ・社会体験チャレンジの協力事業所探しは、行政からアプローチするなど、先生の負担が減るような方法を工夫して欲しい。 ・中高連絡協議会は、素晴らしい取組である。これを続けて、中学校の先生方の進路指導の充実に繋げて欲しい。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校のキャリア教育の充実	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】小学生の職業に触れる体験や中学生の職場体験などを実施し、望ましい職業観・勤労観を育成する。		
平成25年度の実績	<p>〈発達段階に応じたキャリア教育の推進〉</p> <p>①小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。</p> <p>②産業祭への参加(深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った)</p> <p>③中1での職業調べ、中2での上級学校調べまたは訪問、中3での高校説明会への参加といった活動を全校で実施した。</p> <p>〈小・中・高における「なめらかな接続」の推進〉</p> <p>①各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。</p> <p>②中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校と2回、熊谷市内高等学校と2回の協議会を開催)</p> <p>〈職場体験活動の充実〉</p> <p>①中学生社会体験チャレンジの実施(全中学校において、2年生が実施した。事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施)</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	社会体験チャレンジ参加実人数	1,324人	中1から中2への移行期を終了し、全10中学校が中2で実施。
	社会体験チャレンジ参加割合	100%	全生徒参加
	生徒一人当たりのコスト	2,168円	全中学校が実施できたため、効率性が保てた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	望ましい職業観・勤労観を育成するために、発達段階に応じた取組がなされた。中学生で行う社会体験チャレンジは、推進委員会での協議等により、全中学校で体験活動が2年生に統一されたり、深谷商工会議所・ふかや市商工会等の協力が得られるなど、一定の成果が上がっている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

I-6

施策名	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	点検評価表作成課	学校教育課
施策の方向性	○各学校において、個別の教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制を整えます。 ○特別支援学級や通級指導教室について、ニーズを把握しながら、新設、増設等の準備を進めます。		
施策に関連する主な取組	○特別支援教育体制の整備・充実	○他機関との連携	
	○就学支援・相談の充実	○支援籍学習の推進	
	○特別支援教育の視点に立った指導の充実	○教育研究所の機能の充実	
	○特別支援補助員の活用		

指標名	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	「特別支援教育の推進」について効果を検証するため、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画の作成率	52.1%	57.7%	64.8%				
		現状値 (平成23年度)		52%		→ 目標値 (平成29年度)		100%

平成25年度重点施策	○特別支援教育事業 ○ふっかちゃんi(愛)サポート事業 ○教育福祉連携推進会議 ○巡回相談の充実
-------------------	---

平成25年度実績	○特別支援教育体制の整備・充実 ・特別支援教育用机(2台)及び特別支援用教育教材(絵入りひらがなカード等)を購入し、大寄小 小学校に配備した。 ○特別支援教育の視点に立った指導の充実 ・特別支援教育コーディネーター等合同研修会 3回 ・特別支援教育担当者研修会 2回 ・特別支援教育担当者研修会(経験3年以下) 2回 ・巡回相談員研修会 1回 ・特別支援教育通常の学級担任研修会 小学校の部2回、中学校の部2回 ○就学支援・相談の充実 ・就学支援委員会 4回 ・巡回相談 63回(幼稚園12回、小学校34回 中学校17回) ・小・中連携巡回相談 18回 ・学級学校支援相談 7回 ○特別支援補助員の活用・・・特別支援補助員研修会 1回 ○他機関との連携・・・123回 ○支援籍学習の推進・・・通常学級支援籍学習 43名、特別支援学校支援籍学習 12名 ○教育研究所の機能の充実・・・WISC(知能)検査実施件数 178件
-----------------	--

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	特別支援教育を推進していく上で、特別支援教育コーディネーター及び特別支援教育担当者の専門性の更なる向上、通常の学級担任の特別支援教育的支援及び指導力の向上が必要であり、継続して研修に取り組んでいくことが必要である。また、今後、児童生徒の教育的ニーズにあった環境や教材等の整備が必要である。
-----------	--

評価コメント	・幼稚園・小・中学校への巡回相談、小・中連携巡回相談、学校学級支援相談及び特別支援教育担当者だけでなく、通常の学級担任を含む教職員の指導力向上のための研修会の実施などを通して、一人一人の教育的ニーズに応じた支援に取り組むことができた。 ・通常の学級担任に個別の支援計画作成率が、平成24年度57.7%から平成25年度64.8%に向上した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

意見・提言	・通常学級の個別指導計画の作成は大変だが、それにより生徒の課題が良く見え、非常に効果が高い。その数値が、57.7%から64.8%に大きく伸びており、大変評価できる。 ・小・中連携巡回相談は、不登校の対策として、小・中の滑らかな接続に貢献し、生徒の安心した生活の継続に寄与している。 ・ふっかちゃんi(愛)サポート事業は、iPadを通級指導教室で活用することにより、児童生徒の意欲や興味を向上させ、素晴らしい取組である。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	特別支援教育事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 特別支援教育体制を整理し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。			
平成25年度の実績	○特別支援教育体制の整備・充実○特別支援教育の視点に立った指導の充実 ・特別支援教育コーディネーター等合同研修会 3回 ・特別支援教育担当者研修会 2回 ・特別支援教育担当者研修会(経験3年以下) 2回 ・巡回相談員研修会 1回 ・特別支援教育通常の学級担任研修会 小学校の部2回、中学校の部2回 ○就学支援・相談の充実 ・就学支援委員会 4回 ・巡回相談 63回 (幼稚園12回、小学校34回、中学校17回) ・小・中連携巡回相談 18回 ・学級学校支援相談 7回 ○特別支援補助員の活用・・・特別支援補助員研修会 1回 ○他機関との連携・・・123回 ○支援籍学習の推進・・・通常学級支援籍学習 43名、特別支援学校支援籍学習 12名 ○教育研究所の機能の充実・・・WISC(知能)検査実施件数 178件			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	特別支援教育関係研修会	12回	特別支援教育担当者の専門性向上のための研修会を行い、個に応じた児童の指導・支援につなげていく。	
	巡回相談の実施	100% (29校/29校)	巡回相談を実施することにより、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かな指導を行う。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	研修会や巡回相談を通して、特別支援教育担当者の専門性の向上や、校内支援体制の見直し、校内で行っている個に応じた支援について教職員の理解が深まり、特別支援教育体制整備の充実を図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	ふっかちゃんi(愛)サポート事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】「ふっかちゃん子ども福祉基金」を財源とし、特別支援教育の支援体制の整備の充実を図る。主にiPad等の機器を整備し、障害の状態や発達の段階等に応じて活用することにより、学習や生活上の困難をサポートし、学習指導の効果を高めることを目的とする。			
平成25年度の実績	・通級指導教室(深谷小、藤沢小、深谷中、教育研究所内)にiPadを合計33台整備し、授業での活用を行った。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学習効果についての満足度	100%	全ての通級指導教室担当教員が「効果がある」と回答している。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	iPadを活用した学習活動により、興味・関心が高まったり、学習内容の理解が深まったりと児童生徒に変容が見られたと全ての担当教員が回答した。また、保護者にも概ね好評である。今後は、今年度の成果をふまえ、特別支援学級への整備についても進めていく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	教育福祉連携推進会議	担当課	学校教育課
概要	【青淵・学びの郷づくり】 学校・園と関係各課との役割を明確にし、協働体制を整備し、虐待や不登校の解消に努める。		
平成25年度の実績	○深谷市教育・福祉連携推進会議 ・連携課等：福祉課、福祉政策課、障害福祉課、保育課、子ども青少年課、保健センター、社会福祉協議会、学校教育課		
	第1回 部課長会議 平成25年 8月 2日 第2回 実務者会議 平成25年 8月28日 就学システムの周知のためのリーフレット作成 第3回 実務者会議 平成25年12月24日 教育・福祉関連用語集作成 第4回 実務者会議 平成26年 1月29日 教育・福祉関連用語集まとめ 第5回 部課長会議 平成26年 2月28日 今年度の教育・福祉連携の取組についての検証・課題の把握		
	指標名	実績値	指標別コメント
	部課長会議	2回	深谷市教育・福祉の更なる連携のため、適時、情報交換を行い、早期対応ができるようにヨコの連携の強化を図る。
実務者会議	3回	各課の取組内容の周知を図るため、ケース会議や就学支援マップ等を作成し、ヨコの連携を強化する。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	部課長会議や実務者会議で情報交換、ケース会議等を行い、教育・福祉の早期支援や迅速な対応ができるよう連携体制の強化を図った。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	巡回相談の充実	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】福祉相談員や専門員等による巡回相談を定期的を実施し、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、園・校内での支援体制を整備すること。		
平成25年度の実績	○幼稚園巡回相談実施回数 幼稚園(全12園) 実施回数12回(5月1回、6月7回、7月4回)		
	○小・中学校巡回相談(午前午後の半日のスケジュールで実施) 小学校(全19校) 実施回数34回 中学校(全10校) 実施回数17回 合計51回		
	○小・中学校連携巡回相談 小学校(全19校) 実施回数18回 (1校は大雪による休校により中止)		
	○保育園巡回相談回数 保育園 44回 (公立5園、私立25園)		
担当課評価	指標名	実績値	指標別コメント
	小・中学校巡回相談	51回	小・中学校の巡回相談を通して子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた支援・指導を行う。
	小・中学校連携巡回相談(小学校19校)	18回	0歳から15歳までの子どもを一貫して育てるタテの連携を生かした巡回相談で、小学校から中学校へのなめらかな接続を図る。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	巡回相談を実施することにより、子ども一人一人の教育的ニーズに合った支援・指導を行い、教員の子ども理解が深まり、指導力の向上に生かすことができ、学級支援にもつながった。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



施策名		まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進			点検評価表		学校教育課	
作成課		学校教育課						
施策の方向性		○「青淵学びの郷づくり」を推進します。 ○地域の特色を生かし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進します。 ○子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むため、地域の特色を生かした体験活動の充実を推進します。 ○学校における子どもたちの豊かな読書活動を推進します。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)を推進します。						
施策に関連する主な取組		○「青淵学びの郷づくり」の推進			○「教育に関する3つの達成目標」の推進(再掲)			
		○道徳教育の推進						
		○体験活動の推進						
		○読書活動の推進						
指標名		「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品数の増加						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内の在勤・在住者対象の、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般の部への応募作品数 ※()は高校生・大学生を除く一般数	589作品 (-)	1,349作品 (130)	1,342作品 (149)				
		現状値 (平成23年度)	589作品		→	目標値 (平成29年度)	1,000作品	
平成25年度重点施策	○渋沢栄一こころざし読本の活用 ○まごころ先生の派遣 ○まごころ訪問の実施 ○子ども読書活動の推進							
平成25年度実績	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・「青淵学びの郷づくり」心の教育推進協議会を実施した。(1月22日) ・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙文の募集(応募総数12,960点)と表彰、作品集(第6集)の作成、配布を行った。 ○道徳教育の推進 ・「渋沢栄一こころざし読本」は、すべての小・中学校で活用した。 ・市内全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校23回、中学校18回) ・「青淵・こころざし歳時記」を、市内全小・中学校児童生徒に配布し、朝の読書活動など教育活動で活用した。 ・「青淵・こころざし歳時記」を、図書館、公民館等公共施設に配置するとともに、HPに掲載した。 ・市内全小学校で、まごころ訪問を実施した。 ○読書活動の推進 ・市内全小・中学校に司書教諭を発令し、学校図書館補助員を配置した。 ・ふかや必読書30を、「広報ふかや」で紹介した。 ・1人当たりの年間貸出し冊数 小学校41.8冊、中学校23.2冊 ○「教育に関する3つの達成目標」の推進(再掲) ・小・中学校合わせて108項目中、106項目が達成率80%を上回った。							
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
課題	・子どもたちの心の教育を充実させるために、引き続き、「渋沢栄一こころざし読本」及び「まごころ先生」の積極的な活用とともに、道徳の時間の指導力の向上を図ることが必要である。							
評価コメント	・「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、「渋沢栄一こころざし読本」及び「まごころ先生」の活用の他、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙作文の募集、「まごころ訪問」などを積極的に行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図れた。 ・成果指標については、目標値の1,000作品を超えることができた。今後は高校生や大学生を除く一般作品の数を増やしたい。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言	・成果指標である「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般の部への応募作品数は、2年連続で目標を大きく上回っており、非常に評価できる。取組が定着してきており、このまま続けて欲しい。 ・まごころ訪問は、児童の心の育成に関し、非常に素晴らしい取組である。 ・まごころ先生の派遣、こころざし読本の活用により、道徳教育の充実が図られている。							

重点施策評価表

重点施策名	渋沢栄一こころざし読本の活用		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 栄一翁をはじめとした郷土の偉人の生き方等に触れ、子どもの心の芯を鍛える。			
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「渋沢栄一こころざし読本」は、全小・中学校で活用されている。(活用状況小・中学校100%) ・深谷市道徳教育研修会を7月31日に実施し、「渋沢栄一こころざし読本」の効果的な活用を図った。(小学校27名、中学校14名参加) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	渋沢栄一こころざし読本の活用率	小学校100% 中学校100%	道徳年間指導計画に位置付け、市内全ての小・中学校で着実に実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校で「渋沢栄一こころざし読本」を活用することで、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができる。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	まごころ先生の派遣		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 深谷市の特色を生かして、豊かな心を育むために、まごころ先生の派遣を推進する。			
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市内の全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校23回、中学校20回) ・深谷市道徳教育研修会を7月31日に実施し、「まごころ先生」の効果的な活用を図った事例を示した。(小学校27名、中学校14名参加) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「まごころ先生」活用率	小学校100% 中学校100%	「渋沢栄一こころざし読本」の積極的な活用を図るため、全ての小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校へ「まごころ先生」を派遣することで、「渋沢栄一こころざし読本」の活用もより積極的になり、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	まごころ訪問の実施		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】お年寄りに育てた花と手紙を贈る活動を通して、子どものまごころと思いやりを育てる。			
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校19校で実施。(合計1,613世帯) 【実施内容】 ・児童が、市教委から配布された花の苗を鉢に植え替え、一定期間育てる。また、一人暮らしのお年寄りに向けた手紙を書く。 ・児童が、各地区で行われる民生委員・児童委員の定例会に出向き、民生委員・児童委員に花と手紙を渡す。 ・民生委員・児童委員が、一人暮らしのお年寄りのお宅への訪問時に、児童から預かった花と手紙を届ける。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「まごころ訪問」活用率	小学校100%	市内全小学校でまごころ訪問を実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成25年度より市内全小学校に拡充して、まごころ訪問を実施することができた。お年寄りに育てた花と手紙を贈る活動を通して、児童のまごころと思いやりを育てることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	子ども読書活動の推進		担当課	学校教育課 図書館
概要	【青淵学びの郷づくり】「深谷市子ども読書活動推進計画」のもと、学校図書館の充実を図り、児童生徒が読書活動に親しめるようにする。			
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校へ図書館補助員を配置した。 ・学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を図った。2回実施。(第1回平成25年10月4日。第2回平成26年3月25日。) ・児童生徒への効果的かつ円滑な教育活動の推進を図り、読書活動の充実等を図った。 ・「深谷必読書30」を「広報ふかや」に掲載するなどの発信をし、よい本に触れることができるよう子どもたちの読書活動を支援した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	市臨時職員(図書館補助員)の配置状況	100% (29校/29校)	市内全小・中学校に配置した。	
	一人あたりの年間図書貸し出し数 小学校	41.8冊	前年度の39.1冊より増加した。	
一人あたりの年間図書貸し出し数 中学校	23.2冊	前年度の18.9冊より増加した。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を行う等の取組を行った。そのことにより、小学校の一人当たりの貸し出し数は目標値を大きく上回ると共に、中学校についても微増であるが増加しているため、評価を「現状維持」とした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



基本目標Ⅱ たくましく生きるための心と体の育成

Ⅱ-2

施策名		いじめ・不登校の防止			点検評価表作成課		学校教育課		
施策の方向性		○いじめ防止のため、児童生徒の人権感覚を育成するとともに、学校や家庭でのいじめの早期発見・早期対応に向けた取組を行います。また、教育相談活動を推進します。 ○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などを推進します。 ○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校間の連携を深め、キャリア教育の充実に努めます。							
施策に関連する主な取組		○いじめ対策の推進 ○教育相談活動の推進 ○不登校対策の推進 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲)							
指標名		不登校児童生徒の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値	
	不登校(病気や経済的理由などを除く年間30日以上欠席児童生徒の100人当たりの割合)	深谷市	2.4%	2.1%	1.6%				
		埼玉県	2.4%	2.4%	2.4%				
		現状値(平成23年度)	中学生2.4%(深谷市)		➔		目標値(平成29年度)	中学生2.2%(深谷市)	
平成25年度重点施策	○学校総合支援員配置事業								
平成25年度実績	○いじめ対策の推進 ・「深谷市いじめ防止基本方針」の策定(平成26年2月) ・学校総合支援員(全中学校)、スクールライフサポーター(小学校5校、中学校9校)の配置 ・いじめ状況等の調査の実施と見届け(全小・中学校、毎月) ○教育相談活動の推進 ・「深谷いーネット」専門相談ダイヤルの開設 ○不登校対策の推進 ・「不登校対策小中連携シート」と「アセス(学校適応感尺度)」の活用 ・「小1プロブレム」対応のための学校アシスタントティーチャー(全小学校)、小1問題対応非常勤講師(小学校7校)の配置 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲) ・「中1ギャップ」対応のための「小学校教科支援エキスパート」(全小学校)、小学校理科支援員(全小学校)の配置								
総合評価	S		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
課題	・いじめ問題に対応するため「いじめ防止対策推進法」に基づき「深谷市いじめ防止基本方針」を作成し、H26年度から「深谷市いじめ問題対策連絡協議会」と「深谷市いじめ問題専門委員会」が設置された。これらの組織と、学校がいかに連携し、いじめの未然防止、早期発見、迅速対応に取り組んでいくかが課題である。								
評価コメント	・いじめ、不登校防止のための学校総合支援員及びスクールライフサポーターの配置が効果をあげている。また、成果指標でも平成25年度は1.6%と、目標値を大きく下回っている。以上のことから、総合評価は「S」とする。								
意見・提言	・「深谷いーネット」専門相談ダイヤルの開設により、相談をしたい児童生徒の選択肢が増え、素晴らしい。 ・成果指標の不登校の割合が、非常に減少している。簡単には減らないものであり、凄いことである。教員、教育委員会、学校が一体となって努力している結果だと思う。S以上の評価でもよい。 ・学校総合支援員等の市費の非常勤職員の配置が、様々な面で学校を助けている。お金はかかるが、ぜひ続けて欲しい。 ・深谷市は、他市に比べて、教育に対して積極的に取り組んでおり、S評価は妥当である。								

重点施策評価表

重点施策名	学校総合支援員配置事業		担当課	学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】 全中学校に学校総合支援員を配置し、学校が抱える問題の解決に向けたアドバイスや児童・生徒の安全指導、中学生補習学習の支援等を行う。</p>			
平成24年度 の実績	<p>・不登校や児童虐待、保護者対応など、学校が抱える問題の解決に向けてのアドバイスを行い、必要に応じて家庭訪問を行うなど、直接対応した。 ・児童・生徒の安全指導(スクールガード支援)を10校で実施。 ・中学生補習学習事業(ステップアップレッスン)のコーディネートを行った。 大学生ボランティアの調整、職員との連携、実際の指導にあたる。10校で153回を実施。 ・市内各中学校間の情報交換のため、定例会議を実施した。主任児童委員会議と同日開催にし、情報交換を行った。(全4回)</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学校運営支援の実施	100% (10校/10校)	学校の状況に合わせて、不登校や児童虐待、保護者対応など、学校が抱える問題についてのアドバイスを行った。	
	スクールガードの実施	100% (10校/10校)	学校応援団等と連携し、生徒の登下校の安全指導を行う。	
学習支援の実施	100% (10校/10校)	塾へ行っていない生徒を対象とした補習学習を行う。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>学校総合支援員は、学校に係る多様な活動に対して、学校運営、生徒指導推進の力となっているとの評価を得ている。 また、主任児童委員や民生委員との情報交換を行い、児童・生徒に係る情報を共有し、スムーズな対応ができるようになっている。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

施策名	生徒指導の充実	点検評価表 作成課	学校教育課					
施策の方向性	○生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進します。 ○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行います。							
施策に関連する 主な取組	○生徒指導体制の充実 ○非行・問題行動の防止							
指標名	児童生徒の暴力行為の発生件数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	30件	16件	20件				
		現状値 (平成23年度)	30件		→	目標値 (平成29年度)	25件	

平成25年度 重点施策	○SLS(スクールライフサポーター)の配置		
平成25年度 実績	<p>○生徒指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深谷市生徒指導推進協議会を年5回開催し、学校と警察との連携および小学校と中学校の連携を図った。 ・生徒指導に係る学校訪問を実施し、校内生徒指導体制の充実に向けた指導・助言を行った。 ・市独自のネットパトロールを実施した。 ・県と連携し、「小1問題対応非常勤講師」を小学校7校に配置した。 <p>○非行・問題行動の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポーターを県警に要請し、市内中学校に配置し、問題行動の未然防止を図った。 ・スクールライフサポーター(SLS)を市内小・中学校14校に配置し、積極的な生徒指導や問題行動の未然防止を図った。 ・市独自のネットパトロールを実施した。 ・全ての小・中学校で非行防止教室を実施した。 <p>・暴力行為発生件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 対教師暴力0件、生徒間暴力3件、対人暴力0件、器物損壊1件、計 4件 ・中学校 対教師暴力0件、生徒間暴力5件、対人暴力2件、器物損壊9件、計16件 		
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と警察とのさらなる連携の充実を図るとともに、同一の生徒が暴力行為を繰り返すことへの対応が課題である。 ・小学校において、4件の暴力行為が発生しており、未然防止の対策が必要である。 		
評価コメント	平成23、24年度と0件であった小学校の暴力行為が平成25年度は4件発生し、中学校の発生件数は前年度と同数である。深谷市全体では20件であり、目標値(25件)を下回っている。今後も、暴力行為の未然防止をさらに進めていく必要があり、小中学校の連携や学校と警察との連携を充実させたい。以上のことから、総合評価は「A」とする。		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとっては、身近にスクールライフサポーターがいることで、様々な助けになっている。 ・成果指標である暴力行為発生件数は、20件に抑えられており、素晴らしい。落ち着いた学校経営が出来ていると言える。 ・小学校での暴力行為発生件数は4件であるが、問題行動の低年齢化の傾向もあるので対応には慎重を期して欲しい。 ・スマートフォンを利用したいじめ対策については、クラス単位ではなく、行政単位で行うと、より効果があるのではないか。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	SLS(スクールライフサポーター)の配置		担当課	学校教育課												
概要	【青淵学びの郷づくり】スクールライフサポーターの配置により、積極的な生徒指導を推進し、非行・問題行動の未然防止を図る。															
平成25年度 の実績	<p>スクールライフサポーターの配置</p> <p>(1)目的 生徒指導の充実に資するため、授業に集中できるように個々に応じた学校指導支援を行う。また、学級での支援及び校内パトロール等を行うことで、情報をいち早くキャッチし、問題行動の発生を未然に防止する。</p> <p>(2)配置について(小学校5校、中学校8校)</p> <p>・桜ヶ丘小学校、上柴東小学校、上柴西小学校、大寄小学校、花園小学校</p> <p>・深谷中学校、南中学校、藤沢中学校、上柴中学校、幡羅中学校、岡部中学校、川本中学校、花園中学校</p>															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="311 616 710 660">指標名</th> <th data-bbox="710 616 981 660">実績値</th> <th data-bbox="981 616 1476 660">指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="311 660 710 795">スクールライフサポーターの配置状況</td> <td data-bbox="710 660 981 795">44.8% (13校/29校)</td> <td data-bbox="981 660 1476 795">スクールライフサポーターを13校に1名ずつ配置することができ、目標を達成することができ、問題行動の未然防止を図ることができた。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 795 710 940">不登校数 暴力行為の発生件数 非行問題の発生件数</td> <td data-bbox="710 795 981 940">69名 20件 123件</td> <td data-bbox="981 795 1476 940">不登校数が24名減少し、個に応じた指導支援を行うことができた。非行問題の発生件数は増えているが、学校における非行問題の発生件数は減少している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="311 940 710 1008"></td> <td data-bbox="710 940 981 1008"></td> <td data-bbox="981 940 1476 1008"></td> </tr> </tbody> </table>			指標名	実績値	指標別コメント	スクールライフサポーターの配置状況	44.8% (13校/29校)	スクールライフサポーターを13校に1名ずつ配置することができ、目標を達成することができ、問題行動の未然防止を図ることができた。	不登校数 暴力行為の発生件数 非行問題の発生件数	69名 20件 123件	不登校数が24名減少し、個に応じた指導支援を行うことができた。非行問題の発生件数は増えているが、学校における非行問題の発生件数は減少している。				
	指標名	実績値	指標別コメント													
	スクールライフサポーターの配置状況	44.8% (13校/29校)	スクールライフサポーターを13校に1名ずつ配置することができ、目標を達成することができ、問題行動の未然防止を図ることができた。													
不登校数 暴力行為の発生件数 非行問題の発生件数	69名 20件 123件	不登校数が24名減少し、個に応じた指導支援を行うことができた。非行問題の発生件数は増えているが、学校における非行問題の発生件数は減少している。														
評価区分	評価コメント															
担当課 評価	1	<p>スクールライフサポーターを配置することにより、個に応じた指導支援を行うことができ、生徒は集中して授業に取り組むことができている。また、校内パトロールを実施することで、情報をキャッチして問題行動の未然防止を図ることができ、スクールライフサポーターの配置効果がでている。</p>														
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>																

施策名		人権を尊重した教育の推進		点検評価表 作成課		学校教育課			
施策の方向性		○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善します。 ○関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努めます。 ○男女共同参画の視点に立った教育を各学校の教育活動を通して推進します。							
施策に関連する 主な取組		○人権教育推進体制の充実							
		○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善							
		○児童虐待防止教育の推進							
		○男女共同参画の視点に立った教育の充実							
指標名		人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合							
成果指標	指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内の小中学校の全学 級で、人権感覚育成プ ログラムを活用した授 業実践を行った学級の 割合	小学校	76%	85%	83%				
		中学校	80%	86%	86%				
			現状値 (平成23年度)	小学校 76% 中学校 80%		目標値 (平成29年度)		小学校 90% 中学校 90%	

平成25年度 重点施策	○情報モラル教育の推進 ○人権教育総合推進地域事業	
平成25年度 実績	○人権教育推進体制の充実 ・新転任人権教育研修会の実施(7/22,26) ・ブロック別人権教育研修会の実施(市内10ブロック) ・人権教育懇談会の実施(8/27) ・人権教育主任研修会の実施 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ・深谷市新任・転入教職員研修「情報モラルを指導する～インターネットの光と影～」を実施 ・ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導の実施(全19小学校・全10中学校) ・人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施(14小学校 全10中学校) ○児童虐待防止教育の推進 ・H25年度児童虐待対応研修会への参加(県主催 小学校教諭19名 中学校教諭10名) ・H25年度児童虐待アフターケア研修会への参加(県主催 市内5校) ・児童虐待防止に関する指導の実施(15小学校 7中学校)	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	明戸中学校区での人権教育総合推進地域事業の取組を、市内の小・中学校へ広めていく。	
評価コメント	人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することにより、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導を行うことができた。今後も引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の実績値は目標値に近づいており、様々な研修会による教員の人権感覚の向上が確認できる。 ・情報モラル教育は、家庭がしっかりと児童生徒に関わるのが重要なので、非行防止教室の保護者参加人数の増加を期待する。 ・情報の分野は変化が激しく、新しいソフトなどは、往々にして教員よりも児童生徒の方が詳しいので、意識的な情報の把握に努めて欲しい。 ・成果指標に関しては、目標に向けた努力が感じられる。このまま地道に続けて欲しい。
--------------	--


重点施策評価表

重点施策名	情報モラル教育の推進		担当課	学校教育課
概要	児童生徒の正しい判断力を身につけるため、情報モラル教育を充実する。			
平成25年度の実績	<p>〈取組〉深谷市新任・転入教職員研修にて、人権教育研修を行った。</p> <p>①対象:本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転入教職員等</p> <p>②内容:「情報モラルについて」と題し、児童生徒の正しい判断力を身につけさせるための指導方法について研修した。</p> <p>③講師:学校教育課課長補佐</p> <p>〈取組〉各学校において、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。</p> <p>①実施校及び対象:全19小学校・全10中学校の全児童生徒及び保護者に対して</p> <p>②内容:携帯電話の所持率やトラブルの増加傾向をうけて、情報モラルに係る具体的な指導や啓発を行った。</p> <p>③講師:各学校から依頼(例:深谷警察署生活安全課職員)</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	情報モラル教育の実施状況	100% (29校/29校)	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を行うことができた。	
	非行防止教室保護者参加人数	691人	毎年、継続的に保護者への啓発がなされていることが、成果につながっている。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者の啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の普及率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	人権教育総合推進地域事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】豊かな人間性や人権感覚をはぐくむために、人権教育総合推進地域事業を推進する。			
平成25年度の実績	<p>○学校、家庭、地域社会が一体となった人権教育の総合的な取組を教育委員会との連携・協力の下で推進し、地域全体で人権尊重の意識を高め、一人一人を大切にされた教育の充実を図る。</p> <p>【研究指定地域】 明戸中学校区</p> <p>【研究指定期間】 平成24年度から平成26年度(3年間)</p> <p>【研究費】 2校1園(年 82万円)</p> <p>【研究テーマ】 学校・家庭・地域が一体となり、まごころと思いやりをはぐくむ人権教育の推進</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	幼・小・中合同の人権教育研修会の実施回数	7回	幼・小・中の連携を図るため、人権教育研修会を定期的実施している	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成25年度の実績を踏まえ、今後も人権教育の研修を充実させるとともに、幼・小・中の連携を図るため、引き続き、異校種間の交流、家庭、地域との交流の機会を確保していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅱ たくましく生きるための心と体の育成

Ⅱ-5

施策名		健康の保持増進			点検評価表 作成課		学校教育課			
施策の方向性		○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭・地域の医療機関等の関係機関が連携して、組織的に学校保健活動を推進します。 ○朝食の欠食を解消することを重点に、学校・家庭・地域が連携して食育を推進します。 ○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの現代的な課題に対応する教育を推進します。								
施策に関連する 主な取組		○学校保健の充実								
		○食育の推進								
		○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進								
指標名		毎日朝食を食べる児童生徒の割合								
成果指標	指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内全児童生徒を対象とする「体力等に関する調査」から、「朝食を毎日必ず食べる」と回答した児童生徒の割合		小学校5年生	94.0%	94.6%	95.6%				
			中学校2年生	89.0%	89.6%	91.8%				
			現状値 (平成23年度)	小学校5年生 94% 中学校2年生 89%			目標値 (平成29年度)	小学校5年生 97% 中学校2年生 92%		
平成25年度 重点施策		○食育の推進と朝食欠食の解消 ○小学校給食場建設事業								
平成25年度 実績		○学校保健の充実 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を作成した。 ・保護者参加の学校保健委員会を実施した。 ○食育の推進 ・誰でも作れる簡単朝食メニュー(材料、作り方)を紹介した「こころざし」を配布した。 ・地場産物を活用した献立を作成した。 ・豊里中学校区(豊里中・豊里小・八基小)を拠点校として食育の推進を行った。 ・栄養教諭参加の研修を実施した。 ・上柴西小学校給食場について、老朽化した厨房機器の更新、給排水設備等の内部改修工事を実施した。 ・榛沢小学校及び本郷小学校に自校式給食場を建設した。 ・岡部小学校及び岡部西小学校に自校式給食場建設の設計業務を完了した。 ○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)を作成し、及び性に関する授業の実施をした。 ・非行防止指導班「あおぞら」や熊谷保健所等外部指導者を活用して薬物乱用防止教室を実施した。								
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
課題		朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を考える必要がある。								
評価コメント		・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小・中学校で作成するとともに、学校保健委員会を全小・中学校で年1回以上実施することができた。 ・毎日朝食を食べている児童・生徒の割合が、小学校は1.0ポイント、中学校は2.2ポイント向上した。 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)を作成し、性に関する授業を計画的に実施することができた。 ・全小・中学校で薬物乱用防止教室を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。								
意見・提言		・成果指標の数値が1.0ポイントと2.2ポイント向上している。少しずつ施策の効果が表れてきており素晴らしい。 ・自校方式による給食の提供は、美味しい給食を食べる上で、大事な施策である。自校方式を進める努力は素晴らしく、今後も続けて欲しい。 ・朝食欠食の解消のために、簡単朝食メニューの紹介などの努力は評価できる。地道に続けて欲しい。 ・成果指標の数値は90%を越えているが、残りの家庭では環境等の理由で朝食欠食にならざるを得ない状況が想定される。家で朝食を取ることに重点を置き、施策を推進してみてもどうか。								


重点施策評価表

重点施策名	食育の推進と朝食欠食の解消		担当課	教育総務課 学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携して朝食欠食の解消に取り組み、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・地場産物の活用を推進し、地域の特色を生かした給食の充実を図る。 ・栄養教諭等を中心に研修し、学校における食育を推進する。 			
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも作れる簡単朝食メニュー(材料、作り方)を紹介した「こころざし」を家庭に配布した。 ・各小中学校において、積極的に地場産物の購入に努め、地場産物を活用した献立を作成した。 ・豊里中学校区(豊里中・豊里小・八基小)を拠点校として、食育の推進を行った。 ・体力向上推進委員会に栄養教諭も参加して研修を実施した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	地場産物の活用の啓発(献立作成)	100% (29校/29校)	全小・中学校で地場産物を活用した献立を作成することができた。	
	栄養教諭も参加する研修の回数	1回	栄養教諭も参加する研修を実施し、簡単朝食メニューを考案してもらうことができた。	
	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校は95.6% 中学校は91.8%	朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校は1ポイント、中学校は2.2ポイント向上した。	
学校給食における地場産物の使用割合	30%	県の「食育推進基本計画」で定められた目標30%を達成した。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	朝食欠食の解消に向けた取組については、「こころざし」を各家庭に配布し、家庭に協力を求めることができた。また、学校に地場産物を積極的に活用するように呼びかけた結果、地場産物を使用した割合は30%となった。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	小学校給食場建設事業		担当課	教育施設課
概要	<p>本事業は、すべての児童に、より温かい給食の提供や、食育指導の充実を図るため、岡部地区で行っている給食センター方式によるものを、自校方式に変更するため、必要な給食場の建設を行う。</p>			
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○建設工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・榛沢小学校及び本郷小学校に自校式給食場を建設した。 ○設計業務の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・岡部小学校及び岡部西小学校の自校式給食場の設計業務を完了した。 <p>(参考・事業計画) 整備予定小学校数 4校 ・旧岡部地区 小学校4校(岡部小・岡部西小・榛沢小・本郷小)</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	給食場建設工事(年度計画2校)	2校	建設工事が完成した学校数。(榛沢小・本郷小)	
	給食場建設工事設計業務(年度計画2校)	2校	建設工事に向けた設計業務が完了した学校数。(岡部小・岡部西小)	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成25年度予定の建設工事(2校)及び工事設計業務(2校)は計画どおりに実施した。引き続き、設計業務が完了した岡部小学校及び岡部西小学校への建設に向けた事務手続を進めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅱ たくましく生きるための心と体の育成

Ⅱ-6

施策名		体力の向上と学校体育活動の推進						点検評価表作成課	学校教育課
施策の方向性		○「教育に関する3つの達成目標」(体力)を推進します。 ○体力向上推進委員会を中心に、家庭や地域社会と連携しながら体力向上推進事業に取り組みます。 ○専門的な指導力を有する地域の外部人材を積極的に活用するなど運動部活動の充実に取り組みます。							
施策に関連する主な取組		○学校体育の充実							
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進							
		○運動部活動の充実							
指標名		新体力テストの結果							
成果指標	指標の説明	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値	
	新体力テスト結果の5段階絶対評価で上位2ランク(A, B)の児童生徒の割合	小学校	52.4%	51.8%	53.6%				
		中学校	47.1%	57.8%	56.0%				
		現状値 (平成23年度)	小学校 52.4% 中学校 47.1%			目標値 (平成29年度)	小学校 57% 中学校 52%		

平成25年度重点施策	○武道指導の充実 ○走力向上の取組の推進	
平成25年度実績	○学校体育の充実について ・体力向上推進委員会の実施(年6回) ・実技研修会の実施 ・小学校水泳実技指導者講習会 ・小学校体育実技指導者講習会 ・深谷市中学校武道(柔道)指導者研修会 ・外部指導者を活用する柔道授業の実施(6中学校) ○教育に関する3つの達成目標 ・新体力テストの実施 ・走力向上「50m走にチャレンジ」の推進 ○運動部活動の充実 ・外部指導者の活用 40名を全10中学校に分けて派遣	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	柔道授業の外部指導者の確保と走力を向上させるためのプログラムの作成・活用が課題である。	
評価コメント	・新体力テストの結果における上位2ランクの児童生徒の割合は、前年度と比較すると小学校では1.8ポイント上回った。中学校では1.8ポイント下回ったが、目標値は上回っている。 ・全中学校で外部指導者を活用した部活動を実施した。外部指導者を活用することにより、安全かつ専門的な指導及び個に応じたきめ細かな指導を実施することができた。その結果、大きな怪我をした生徒は1人もいなかった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・武道の授業で、一人も大きな怪我がなかったことは素晴らしい。研修会や、外部指導者の配置もあるが、学校の努力が大きい。 ・「50m走にチャレンジ」は、1つの競技に絞って、目標を持って行った結果、数値が11ポイントも向上しており、素晴らしい取組である。 ・下位ランクの児童生徒の底上げも必要である。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	武道指導の充実	担当課	学校教育課
概要	【青洲学びの郷づくり】教員の研修を充実し、安全な武道の学習を推進する。		
平成25年度の実績	1 市教委主催の「深谷市中学校武道(柔道)指導者研修会」を開催 2 外部指導者を活用する柔道授業の実施 (1)対象校 6校(深谷中、南中、幡羅中、明戸中、岡部中、川本中) (2)外部指導者及び実施期間 ・明戸中学校 平成26年 2月17日(月)～平成26年 3月 8日(金) ・幡羅中学校 平成25年12月 2日(月)～平成26年 1月17日(金) ・深谷中学校 平成25年11月25日(月)～平成25年12月13日(金) ・南中学校 平成25年12月 2日(月)～平成26年 1月31日(金) ・岡部中学校 平成26年 1月14日(火)～平成26年 2月14日(金) ・川本中学校 平成25年 9月30日(月)～平成25年11月 1日(金)		
	指標名	実績値	指標別コメント
	柔道指導者研修会の実施回数 柔道実技講習会の開催回数	2回	武道(柔道)に関する指導者研修会を授業実施前に実施した。また、夏季休業中に、柔道実技講習会を開催し、教職員の指導力を向上させることができた。
	柔道の授業がある学校への外部指導者の配置状況	100% (6校/6校)	柔道の授業がある6校全てに外部指導者を配置することができ、安全かつ効果的な授業が展開できた。
柔道の授業における大きなけがをした生徒の数	0人	柔道の授業において、大きなけがをした生徒は1人もいなかった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	武道(柔道)指導者研修会を実施することで、柔道の授業の内容や安全面に留意した指導方法を学ばせることができた。教職員の指導力を向上させるとともに、外部指導者を活用したことで、けが人を1人もだすことなく、個に応じた効果的な指導が実施できた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	走力向上の取組の推進	担当課	学校教育課
概要	「50m走にチャレンジ」を推進したり、運動部活動の外部指導者を派遣するなど運動部活動の充実を図る。		
平成25年度の実績	1 小・中学校で「50m走にチャレンジ」を実施 (1)目的 深谷市小・中学校体力向上に係る重点種目である50m走において、自己の記録を高める。 (2)対象 小学校1年生～中学校3年生 (3)実施期間 平成25年11月11日(月)～11月29日(金) (4)その他 新体力テスト実施要項に準じて実施 各学年上位10名に記録証を発行		
	指標名	実績値	指標別コメント
	「50m走にチャレンジ」の実施状況	100% (29校/29校)	深谷市内全小・中学校で「50m走にチャレンジ」を実施し、走力の向上を図ることができた。
	新体力テストにおける50m走の記録が 県平均を上回った割合	50%	県平均値を上回った割合が、平成24年度の39%に比較して11ポイント向上した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	深谷市の体力の課題である50m走の記録を向上させるために「50m走にチャレンジ」を実施し、児童生徒は意欲的に取り組んだ。県平均値を上回った割合が、平成24年度の記録と比較すると、11ポイント向上し、着実に走力は高まっている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名		信頼される教職員の育成				点検評価表 作成課		学校教育課		
施策の方向性		○教職員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実します。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組みます。 ○教員が子どもと向き合う環境づくりのための取組を推進します。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進します。								
成果指標		施策に関連する主な取組				指標名				
		○教育研究所の機能の充実				○指導力が不足している教員への対応				
		○経験豊かな人材の活用				○子どもと向き合う環境づくりの推進				
		○教職員研修の充実				○悩みを抱える教職員に対する取組の推進				
		○人事評価制度の充実								
		教職の経験年数に応じた研修の実施状況								
		指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
		若手教職員研修の回数		0	0	2				
		中堅教職員研修の回数		0	0	0				
		管理職研修の回数		2	2	3				
		現状値 (平成23年度)		管理職対象の研修会2回の実施		目標値 (平成29年度)		①若手教職員対象の研修を実施(2回) ②中堅・ベテラン教職員対象の研修を実施(2回) ③管理職対象の研修を実施(2回)		
				➔						
平成25年度重点施策		○教育研究所を核とした教員研修の充実 ○学校問題サポートチームの設置 ○ICT活用による校務支援								
平成25年度実績		○教育研究所の機能の充実 ・教職員の資質向上のための研修の充実。子ども及び保護者の教育相談・支援 ・不登校対策、適応指導教室「いきいき教室」の充実 通級児童生徒15名中12名が学校復帰 ・通級指導教室「発達障害・情緒障害(セルフサポート教室)」「きこえことば」の充実 iPadの活用によりわかりやすい授業の展開 ○経験豊かな人材の活用 ・児童生徒の問題行動や保護者や地域との対応等、学校が抱える様々な課題解決に向けた第1次支援体制として、学校総合支援員10名を配置 ○職員研修の充実 ・研究協力員研修会、各教科等担当指導主事による研修会等の実施 ・弁護士、警察官OB、学校福祉相談員(臨床発達心理士)などの専門家による『学校問題サポートチーム』を設置し、より困難な問題や法的な対応が必要とされる場合の第2次支援体制を整備 ・学校から寄せられる個々のケースについて、問題の早期解決及び適切な対応を行うための専門的な見地から、学校への指導や助言を実施 ・市内園長・校長会議において、管理職対象の研修会を3回実施 市内全幼稚園長、小・中学校長参加 ○人事評価制度の充実・・・評価者研修を実施 ○指導力が不足している教員への対応 ・指導力が不足している教員へ、各指導主事が学校を訪問し、繰り返し指導を行った。 ○子どもと向き合う環境づくりの推進 ・年間3回、子どもと向き合う保護者サポート講座実施 計3回の参加者人数56名 ・校務支援システム管理者研修会を実施 1月末1回 ・校務支援システムの更新を行った中学校10校、小学校7校で操作方法研修を実施した。 ・校務支援システムの更新により、教員の事務の負担が軽減し、子どもと向き合う時間を確保できた。 ○悩みを抱える教職員に対する取組の推進 ・担当委嘱医による教職員メンタルヘルス相談の実施 年間12回								
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
課題		・若手や中堅・ベテランの教職員の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修をそれぞれ年2回実施するために、計画的に進めていく必要がある。								
評価コメント		・管理職を対象とした研修会を、年間3回実施するとともに、若手教職員研修を平成25年度より開始した。中堅教職員研修については、平成26年度実施に向けて企画及び準備を進めた。 ・信頼される学校教育の推進を図り、「学校が好きだ」と回答した児童生徒の割合も県平均を6%程度上回った。 ・学校総合支援員10名を配置し、弁護士、警察官OB、学校福祉相談員(臨床発達心理士)などの専門家等による『学校問題サポートチーム』を設置し、学校からの相談に迅速に対応することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。								
意見・提言		・学校総合支援員は、学校運営に大変貢献しており、市費での配置は評価できる。 ・学校問題サポートチームの存在は、校長先生に安心感を与えている。今後は、さらに相談しやすい制度の構築を期待したい。 ・教職員一人あたりの研修会参加回数は5、7回と高い数値になっており、教育研究所の教員支援は評価できる。 ・若手、中堅、ベテランの教員の混成で事例研究研修等を行うことにより、若手教員の地域や保護者に対するコミュニケーション力の向上が図られるのではないかと。								

重点施策評価表

重点施策名	教育研究所を核とした教員研修の充実		担当課	学校教育課
概要	教育研究所協力員を中心とした研究、研修を充実させ、教員の指導力向上を図る。			
平成25年度の実績	深谷市立教育研究所を会場とした教員の研修会 【研修内容】 ・研究協力員研修会 ・各教科等担当指導主事による研修会 ・小中一貫教育研修会 ・生徒指導・教育相談中級研修会 ・巡回相談研修会 ・特別支援教育担当者研修会 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ・通級指導教室研修会 ・セルフサポート教室研修会 ・早期支援事業研修会 ・就学支援委員会 ・生徒指導研修会 等			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	教育研究所主催の研修会参加人数	4,733人	参加した教員の延べ人数	
	研修会へ参加した回数(1人あたり)	5.7回 (4,733回/826人)	幼稚園、小中学校の教職員(826人)1人あたり約6回(5.7回)の研修参加となっている。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成25年度、教育研究所が主催した教員研修会の参加者は、延べ4,733人に達した。引き続き教育研究所を拠点とした、教員研修会を開催していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	学校問題サポートチームの設置		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 専門的な立場からの指導・助言・援助を行う学校問題サポートチームを設置し、子どもと向き合う時間を確保する。			
平成25年度の実績	・児童生徒の問題行動や保護者や地域との対応等、学校が抱える様々な課題解決に向けた第1次支援体制として、学校総合支援員10名を配置した。 ・弁護士や警察官OB、学校福祉相談員(臨床発達心理士)などの専門家等による『学校問題サポートチーム』を設置し、より困難な問題や法的な対応が必要とされる場合の第2次支援体制を整備した。 ・学校から寄せられる個々のケースについて、問題の早期解決及び適切な対応を行うための専門的な見地から、学校への指導や助言を実施した。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	専門的な立場からの指導・助言	2件	学校からの法律相談2件に対応した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	児童生徒の問題行動や保護者や地域との対応等、学校が抱える様々な課題解決に向け指導・助言を行い、学校を支援することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	ICT活用による校務支援		担当課	学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】各小・中学校の校務用コンピュータに校務支援システムを整備することにより、名簿や出欠席、成績などの、一元化された情報を、通知表や指導要録、調査書などに反映し、活用できるようにし、教職員の事務的業務の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保できるようにする。</p>			
平成25年度の実績	<p>・中学校10校、小学校7校の校務支援システムの更新に伴い、指導要録や抄本、調査書を電子化し、教師が子どもと向き合う時間を確保した。</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
	校務支援システムに対する教職員の満足度	99%		校務支援システムが更新されたことに対し、「大変よかった」、「よかった」を合わせ、99%と高い満足度であった。
	校務支援システムによって、軽減された時間	46.4時間		手書きの時と比べ、1人あたり年間で平均46.4時間の軽減につながったと回答している。
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>今回の校務支援システムの更新により、指導要録や調査書が電子化されたことで、かなりの負担軽減につながっていると、教職員からの感想が寄せられている。平成26年度は、残りの小学校12校のシステムを更新する予定である。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				



基本目標Ⅲ 信頼される学校教育の推進

Ⅲ-2

施策名		子どもたちの安心・安全の確保		点検評価表 作成課		学校教育課			
施策の方向性		<p>○東日本大震災の教訓を踏まえ、子どもたちに危機管理能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な避難訓練などを計画的に実施します。</p> <p>○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努めます。</p> <p>○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。</p> <p>○災害に強い情報基盤として、ネット commons を全ての小・中学校に導入し、活用していきます。</p>							
施策に関連する 主な取組		<p>○安全教育の推進</p> <p>○学校の危機管理体制の整備・充実</p> <p>○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進</p>							
指標名		緊急地震速報を活用した避難訓練の実施率							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	緊急地震速報の音源を 活用した避難訓練を年 1回以上実施する	小学校	63.1%	100%	100%				
		中学校	80.0%	100%	100%				
		現状値 (平成23年度)	小学校 63.1% 中学校 80%		→		目標値 (平成29年度)	小学校 100% 中学校 100%	

平成25年度 重点施策	<p>○緊急連絡体制の強化</p> <p>○緊急地震速報を活用した避難訓練の実施</p>	
平成25年度 実績	<p>○安全教育の推進</p> <p>・市内全小・中学校で交通安全教室を実施した。</p> <p>○学校の危機管理体制の整備・充実</p> <p>・市内全小・中学校が緊急地震速報の報知音を活用して避難訓練を実施した。</p> <p>○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進</p> <p>・各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。</p> <p>・災害に強い情報基盤として、ネット commons を全ての小・中学校で活用し、「緊急連絡サイト」を設置した。</p> <p>・学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。</p>	
総合評価	S	<p>※総合評価の目安</p> <p>S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>
課題	<p>・緊急連絡サイトのアクセス日(毎月11日)におけるアクセス率を向上させることが課題である。</p> <p>・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童・生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。</p>	
評価コメント	<p>・県教育局の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全小・中学校で1回以上実施できた。</p> <p>・災害時に強い双方向の「緊急連絡サイト」を、全小・中学校でホームページ上に設置できた。</p> <p>・深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。</p> <p>・以上のことから、総合評価は「S」とする。</p>	

意見・提言	<p>・成果指標である緊急地震速報を使った避難訓練は、100%実施できており、素晴らしい。</p> <p>・緊急連絡サイトの設置は、緊急連絡体制の強化として評価できる。今後は、アクセス数を高めていって欲しい。</p> <p>・児童生徒の防犯等に関する各学校における情報の共有化及び関係機関との接続の進め方については、今後の課題であり、教育委員会からの指針の提示等を検討して欲しい。</p> <p>・スクールガードリーダーの取組は、着実に定着してきており、評価できる。さらに徹底して取り組み、より一層の安全の確保を図って欲しい。</p>
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	緊急連絡体制の強化	担当課	学校教育課
概要	学校ホームページに「緊急連絡サイト」を設置することにより、災害発生時等に、電話やメールが混雑し、保護者との連絡手段が断たれる状況になった際にも活用することのできる『双方向の連絡手段』を確保する。		
平成25年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内各小・中学校のホームページに「緊急連絡サイト」を設置した。 毎月11日をアクセス日として、いざという時にいつでも使えるよう、アクセステストを行っている。 ホームページ管理者研修会等で活用法や周知の仕方等についての研修を実施した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	市内小中学校ホームページの1日あたりアクセス数	568件	市内全小中学校の平均アクセス数は、1校あたり1日568件であった。多い学校は、1日1,500件を超えている。
	「緊急連絡サイト」へのアクセス日における回答率	40.8%	3月11日のアクセス日の回答率は、平均40.8%であった。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	「緊急連絡サイト」の設置により、台風時の通学路の危険箇所等、保護者による情報提供があるなど、実際に活用を図ることができた。東日本大震災から3年が経過し、危機意識が薄れてしまわないよう、今後も毎月11日のアクセス日を定着させ、いざという時の備えとしたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	緊急地震速報を活用した避難訓練の実施	担当課	学校教育課
概要	緊急地震速報を活用した避難訓練を全ての小・中学校で実施する。		
平成25年度 の実績	1 緊急地震速報を活用した避難訓練について (1)ねらい 緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を実施することにより、緊急地震速報を聞いた時の避難の仕方を学び、迅速に避難できるようにする。 (2)実施校 小学校19校、中学校10校 (3)実施回数 29回(全小・中学校各1回)		
	指標名	実績値	指標別コメント
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練の実施状況(各校年1回以上)	100%	全ての小・中学校において緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	全ての小・中学校において緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。訓練を実施することで、緊急に地震が起きた場合にも、安全かつ迅速に避難できるように、避難経路や避難の方法について児童生徒は理解することができた。また、教職員においても、地震が起きたときの役割や児童生徒の誘導について理解することができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

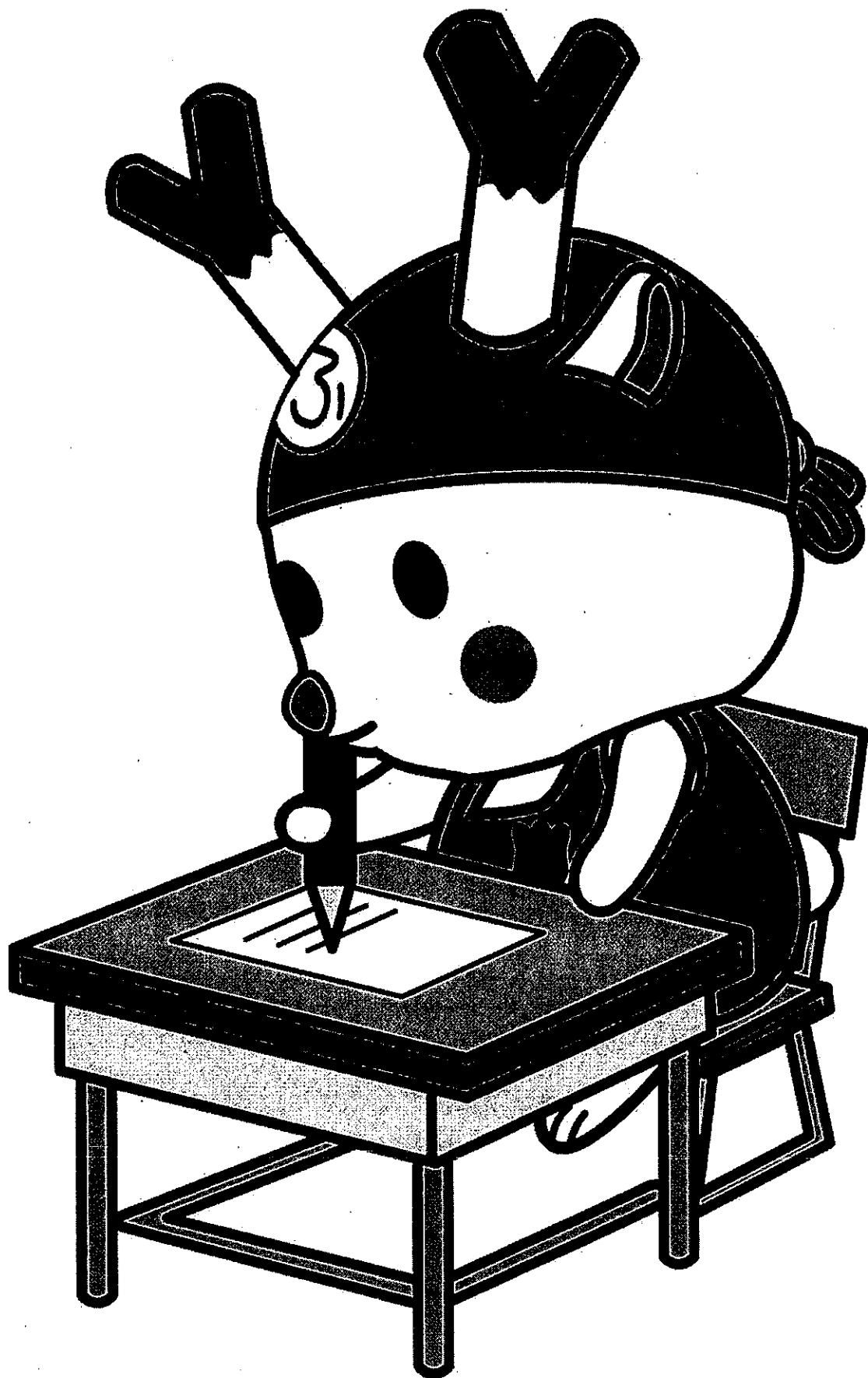
基本目標Ⅲ 信頼される学校教育の推進

Ⅲ-3

施策名	学習環境の整備・充実		点検評価表 作成課	教育総務課					
施策の方向性	○計画的な施設整備により、安全で快適な学校環境づくりを進めます。 ○学校図書館の資料の充実や、学校の情報化を推進し、教材・備品の整備を推進します。								
施策に関連する 主な取組	○学校施設の整備推進								
	○学校図書館の整備・充実								
	○ICT環境の整備								
	○学校教材・備品の計画的な整備								
指標名	学校図書館図書標準を達成した学校の割合								
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	学校図書館に整備すべき蔵書を標準として、文部科学省が定める基準を達成した学校数の割合	小学校	94.7%	100%	100%				
		中学校	100%	100%	90%				
		現状値 (平成22年度)	小学校 89.5% 中学校 100%		→	目標値 (平成29年度)		小学校 100% 中学校 100%	

平成25年度 重点施策		
平成25年度 実績	<p>○学校施設の整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設機能の回復・強化を図るため、明戸小プールサイド改修工事、上柴中テニスコート改修工事等を実施した。 ・児童生徒に対する更なる熱中症予防対策の一つとして、特別教室等へのエアコン設置工事の設計業務を行うと共に、幼稚園保育室へのエアコン未設置園にエアコンを設置した。 <p>○学校図書館の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校に「学校図書館補助員」を配置し、学校図書館整備や読書活動の推進を図った。 ・学校図書館の蔵書の充実を図るため、例年どおり、各学校で新たに図書を購入した。 <p>○ICT環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校7校・中学校10校の耐用年数を超えた校務用コンピュータ及び書画カメラの計画的な入替を行った。 ・学校ホームページに「緊急連絡サイト」を設置した。 ・児童生徒がコンピュータで作成した作品を「深谷市児童生徒コンピュータ作品展」で展示し、市民へ公開した。 ・小・中学校の教職員を対象に、教室におけるICTの活用、校務支援ソフトの活用、ネット commons を活用したホームページの管理・運用等、教育の情報化に関する研修を実施した。 <p>○学校教材・備品の計画的な整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な視点から学校備品の老朽化に対応するため、学校備品整備計画を策定した。 ・現地調査を行い、理科室等の特別教室の老朽化した椅子を更新し、整備を図った。 	
総合評価	A	<p>※総合評価の目安</p> <p>S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>
課題	<p>・学校施設、設備、備品の老朽化への対応が求められている。</p> <p>・教室数の増加により、川本中学校の蔵書数が学校図書館の標準冊数に対し下回り、99.9%になった。</p> <p>・小・中学校のコンピュータの導入方法がリースから買取へ移行したことにより、利息分の削減につながったが、年度によって予算の平準化が困難となっている。</p> <p>・学校備品整備計画を着実に進めるために、毎年度、一定の予算の確保が必要になる。</p>	
評価コメント	<p>・熱中症予防対策として幼稚園保育室へエアコンを設置し、保育室への設置率は100%となった。</p> <p>・各学校において学校図書館の標準図書冊数を下回らないように、計画的な整備が必要である。</p> <p>・校務支援システムの更新により、教職員の事務的負担を軽減し、子どもと向き合う時間の確保につながった。</p> <p>・学校備品整備計画を策定したことにより、老朽化した学校備品の計画的な更新ができるようになった。</p> <p>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</p>	

意見・提言	<p>・幼稚園の保育室へのエアコン設置等の教育環境の整備は、予算を確保し、計画的に行われており、評価できる。</p> <p>・学校図書館の地理系・科学系の図書は、常に最新の世界情勢や科学的知見を児童生徒に提供できるように、滞りなく更新して欲しい。</p>
--------------	---



基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-1

施策名		家庭の教育力の向上				点検評価表作成課		生涯学習課	
施策の方向性		○家庭教育の大切さや子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けるための啓発活動を推進します。 ○親として育ち、家庭での教育力を付けるための学習を推進します。							
施策に関連する主な取組		○家庭教育学級の充実							
		○「親の学習」講座の推進							
		○家庭教育だより「まごころ」の発行							
指標名		新中学1年生の保護者に対する「親の学習」講座実施件数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	中学生になる小学6年生の保護者に向けて、「親の学習」講座を実施した件数(小学校の就学時健診において、新小学1年生の保護者に対しては既に実施済)	0回 (0校)	2回 (2校)	3回 (3校)					
		現状値 (平成23年度)		未実施		→		目標値 (平成29年度)	

平成25年度重点施策	○家庭教育学級事業 ○家庭教育事業	
平成25年度実績	○家庭教育学級の充実 ・家庭教育学級を各公民館にて実施した。 ○「親の学習」講座の推進 ・「親の学習」講座を市内全19小学校及び上柴・幡羅・明戸中学校で実施した。 ○家庭教育だより「まごころ」の発行 ・年3回発行した。(計55, 200部)	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・中学校での「親の学習」は平成24年度から始めて着実に増えているが、平成29年度までには、市内全10中学校で実施していきたい。	
評価コメント	・「親の学習」「家庭教育学級」共に参加者が増加している。 ・「まごころ」は年3回の発行ができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	
意見・提言	・家庭教育学級については、参加人数が増えており評価できる。今後は、主催者名、会場、開催日時等を検討し、さらに参加しやすい事業になるようにして欲しい。	

重点施策評価表

重点施策名	家庭教育学級事業	担当課	生涯学習課
概要	「家庭教育学級」の講座内容等を公民館と検討し、実施する。		
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全12公民館において、家庭教育学級の実施 ・社会教育指導員と講座の内容を検討し、また、家庭教育アドバイザーの活用も行い講座の実施 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	家庭教育学級実施回数	29回	年3回実施している公民館もあり、親子で触れ合える事業も実施している。
	家庭教育学級参加人数	1,742人	PTA等の協力により、参加者が年々増えている。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	市内全ての公民館で事業を実施できている。回数や参加人数のバラツキはあるが、どの公民館も、社会教育指導員と事業計画を立て実施している。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	家庭教育事業	担当課	生涯学習課
概要	「親の学習」講座を、新1年生の親を対象に、小学校就学時健診時に実施する。新中学1年生の保護者に対しては、実施校を増やしていけるよう、実施時期・内容等を検討する。		
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「親の学習」講座の実施(市内19小学校) ・「親の学習」講座の実施(市内3中学校) ・家庭教育だより「まごころ」を年3回発行 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	「親の学習」の開催	22回	「親の学習」は全19小学校で実施した。また、3中学校で実施した。
	「親の学習」参加者数	1,522人	「親の学習」の参加者数は、前年よりも増加した。
	「まごころ」年間発行部数	55,200部	「まごころ」は年3回発行することができた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	3	小学校での「親の学習」は市内全19小学校で実施できた。また、新中学生の「親の学習」は3校での実施だが、今後全中学校で実施できるよう進めていきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-2

施策名		地域の教育力の向上						点検評価表 作成課	生涯学習課
施策の方向性		○子どもたちの居場所づくりや学習支援などを行う環境を整備するにあたり、地域住民の積極的な参加を促進します。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進します。							
施策に関連する 主な取組		○世代間交流事業の推進			○ボランティア活動の促進				
		○放課後子ども教室の推進			○青少年健全育成活動の促進				
		○学校応援団の推進							
		○学校教育・社会教育の連携							
指標名		「がんばル〜ム」に参加した児童の満足度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	参加児童に対しアンケートを行い、児童が「満足した」と回答した割合	66.8%	73.7%	94.5%					
		現状値 (平成23年度)		66.8%	→	目標値 (平成29年度)		95%	

平成25年度 重点施策	○学級講座等開設事業 ○学校応援団推進事業の充実 ○ボランティア活動推進事業	
平成25年度 実績	○世代間交流事業の推進 ・市内公民館で各種学級講座、家庭教育講座を開催した。 ○放課後子ども教室の推進 ・がんばル〜ムを市内全19小学校で実施した。 ○学校応援団の推進 ・学校支援者保障制度に加入した。 ・各小・中学校における活動費用の補助を行った。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・各公民館で開催する講座が毎年同じような内容になり、参加者が伸び悩んでいる。参加者が増える講座を検討したい。 ・がんばル〜ムの参加児童数も減少気味である。ハーフタイム等の見直しを行い、参加者増につなげたい。	
評価コメント	・がんばル〜ムは参加児童にアンケートを行った結果満足度が高い結果となった。 ・各公民館にて各種学級講座及び世代間交流事業を実施することができた。 以上のことから、総合評価は「A」とする。	
意見・提言	・学校応援団は、学校の要請に応じてそれぞれの地域の特性があって良いと思う。ただ、基本的なガイドラインのようなものがあると、より発展できるのではないかと。 ・学級講座は、これまでの内容に加えて、時代にあわせた講座内容を検討してみると、より参加者が増えるのではないかと。	

重点施策評価表

重点施策名	学級講座等開設事業		担当課	生涯学習課
概要	地域社会の連帯意識の向上を図り、地域ぐるみで子育てを行う考えのもとに、各公民館で地域住民が子どもたちにお祭りや物作りの指導等を行います。			
平成25年度の実績	・学級講座等の開催			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学級講座開催数	264回	「学級講座」は、各公民館において行ったが、昨年に比べて実施回数は減っている。	
	学級講座参加者数	11,032人	「学級講座」の参加者数は若干減少しているが、内容は満足できるものであった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	各公民館では、講座への参加者が減少しているため、地域住民のニーズを反映させた内容を検討する必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	学校応援団推進事業の充実		担当課	学校教育課
概要	<p>地域全体で学校教育を支援するため、現在本市で課題となっている暴力行為やいじめ、非行等について学校と地域との連携体制の構築を図り、多様な形態の教員支援を可能とし、教師が子どもと向き合う時間を確保し拡充を図るよう活用する。</p>			
平成25年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> 各小・中学校に学校応援コーディネーターが配置され、学校支援活動が行われていた。 学校応援団を対象とした傷害保険に加入し、地域のボランティアによる学習支援、登下校の安心・安全の確保、環境整備、中学校における部活動補助等を安心して学校支援活動を進めることができた。また、支援活動日数(のべ日数)も目標値の5,800日(29校×200日:学校応援団の活動が市内全小・中学校で毎日行われることを想定)を上回り、7,010日の支援活動が行われた。同一日に、複数の支援活動が行われていることが分かる。 各小・中学校における活動費用(消耗品の購入等)の補助を受けられたことで、各小・中学校の学校応援団の活動を円滑に行うことができた。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学校応援コーディネーターの配置状況	100% (29校/29校)	市内全小・中学校に学校応援コーディネーターが配置された。	
	学校応援団の支援活動日数の目標値に対する割合	120.9% (7,010日/5,800日)	学校応援団の活動が市内全小・中学校で毎日行われることを想定し、29校×200日＝5800日を目標値とする。小学校では児童の登下校の安心・安全に係る支援、中学校では部活動における支援が多かった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>学校応援コーディネーターを中心に、学校支援活動が行われた。今後は更に地域が学校を応援する体制を拡充する。また、市民協働の観点から、学校応援団推進連絡協議会を設置し、活動実践事例や人材の共有、組織の整備等について協議する。</p>		

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

重点施策評価表

重点施策名	ボランティア活動推進事業		担当課	生涯学習課
概要	市民大学の各期卒業生で構成する、ふかや市民大学連絡協議会へボランティア情報を提供し、市の各種ボランティアに参加してもらう。また、自発的にボランティア事業の立案をしてもらうよう市の取り組みをPRする。			
平成25年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ふかや市民大学連絡協議会へボランティア情報を提供した。 ・市民大学の講座で、「学校支援ボランティア講座」を実施した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	ボランティア情報提供件数	13件	庁内へ照会し、各種ボランティア情報をふかや市民大学連絡協議会へ提供できた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	ふかや市民大学連絡協議会へ各種ボランティア情報の提供をすることにより、市が行う様々なイベントに対し、ボランティアとして協力いただける体制を築けている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅴ 生涯を通じた学習活動の推進

V-1

施策名		学習機会の提供と学習活動の支援				点検評価表 作成課		生涯学習課	
施策の方向性		○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備します。 ○多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室等の充実を図ります。							
施策に関連する 主な取組		○生涯学習推進体制の整備・充実				○市民大学の推進			
		○指導者の育成・確保				○子ども体験学習の推進			
		○学習情報の収集と提供				○放課後子ども教室の推進(再掲)			
		○講座・教室の充実							
指標名		「ふかや市民大学」の満足度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	受講生に対しアンケートを行い、 受講生が講座全体に関して「満足した」と回答した割合	93.7%	98.0%	98.0%					
		現状値 (平成23年度)		93%	➡		目標値 (平成29年度)		95%

平成25年度 重点施策	○市民大学運営事業	
平成25年度 実績	○指導者の育成・確保 ・親の学習等の講師として、家庭教育アドバイザーを活用した。	
	○講座・教室の充実 ・パソコン講習会を深谷・上柴公民館において開催した。 ・シルバー生活文化展を公民館協会にて開催した。	
総合評価	○市民大学の推進 ・市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表することができた。	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
	○子ども体験学習の推進 ・親子体験教室(藍染体験教室)を実施した。 ・子ども体験教室(ホバークラフト教室)を実施した。	
	○放課後子ども教室の推進(再掲) ・がんばル〜ムを市内全19小学校で実施した。	
課題	・市民大学の講座内容については、H25～H27の3年間大幅な見直しをしないこととなっているが、外部評価委員から、講座が単発で体系化に欠け、開講が少ない等の指摘もあり、どの程度の見直しをするか運営委員会での協議が必要となる。	
評価コメント	・「親子体験教室・子ども体験教室」については、参加希望者が定員を上回った。 ・市民大学の応募者数が定員を上回り、また、成果指標である満足した受講者の割合も高い数値を継続できた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・市民大学の満足度が非常に高く、評価は妥当である。 ・今の子どもたちは体験する機会が少なくなっていると思うので、子ども体験学習は素晴らしい企画である。更に拡充して欲しい。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	市民大学運営事業		担当課	生涯学習課
概要	深谷公民館を中心に市内公共施設において、月2回を原則に全20回講座を実施します。			
平成25年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学の開催(全20回講座の実施) ・市民大学運営委員会の開催 ・市民大学講座の他に班活動を実施 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	市民大学講座回数	20回	市民大学は目標どおり全20回講座を実施することができた。	
	市民大学応募者数	84人	運営委員会にて講座の見直しを実施した。また班活動では成果を発表することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	市民大学運営委員による講座の見直しを行うことができた。今後は市民大学卒業生に対するボランティア情報の提供等、卒業生の社会参加の支援を行っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標V 生涯を通じた学習活動の推進

V-2

施策名		活動施設の整備・充実						点検評価表 作成課	生涯学習課
施策の方向性		○生涯学習活動施設の整備・充実を図ります。 ○生涯学習活動施設の利用方法の改善を図ります。							
施策に関連する 主な取組		○公民館の整備・充実							
指標名		公民館利用者数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内12公民館の年間利用者数	526,157名	518,570名	513,817名					
		現状値 (平成22年度)		523,505名	➡	目標値 (平成29年度)		530,000名	

平成25年度 重点施策	○(仮称)花園公民館建設事業	
平成25年度 実績	○公民館の整備・充実 ・花園公民館建設工事を行った。(H24・H25継続事業)・・・教育施設課へ執行委任し実施した。 ・花園公民館の建設に伴い、旧花園公民館の解体工事について設計業務を完了した。 ・花園公民館の施設備品購入を行った。 ・市内各公民館の建物保守・検査を行った。 ・市内各公民館の修繕工事を行った。 ・市内各公民館の施設備品購入を行った。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・老朽化が進んでいる公民館もあり、修繕箇所が増えている。また、岡部・川本は新公民館建設に向けて事務を進めていく必要がある。	
評価コメント	・年間利用者数については、減少しているが、各館ごと各種事業を計画し、参加者増を図った。 ・花園公民館については、12月2日にオープンし、計画どおり進めることができた。 ・市内公民館の修繕については、利用者の安全・安心を第一に考え、ほぼ実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・市内各地区に立派な公民館があるが、市の財政状況等を考えると将来的に維持管理が大変になると考えている。ボランティアの活用など、今から何らかの対策を検討し始めてはどうか。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	(仮称)花園公民館建設事業		担当課	教育施設課											
概要	<p>本事業は、花園公民館の活動拠点としての充実、施設の安全性の確保及び利用者利便性の向上を図るため、支所機能を持つ公民館として、平成23年度より花園公民館の整備を進めている。平成25年12月2日開館。(生涯学習課より執行委任)</p>														
平成25年度の実績	<p>○建設工事の実施 ・昨年度に発注済みの建物本体工事(建築・電気設備・機械設備)を今年度も引続き、工事施工等の監督業務を行うと共に、外構、植栽等の関連工事を発注し、(仮称)花園公民館を建設した。(H24・H25継続事業)</p>														
	<p>(参考)主な発注工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)花園公民館建築工事 ※H24・H25継続工事 ・(仮称)花園公民館電気設備工事 ※H24・H25継続工事 ・(仮称)花園公民館機械設備工事 ※H24・H25継続工事 ・(仮称)花園公民館外構工事 ※H25発注工事 ・(仮称)花園公民館植栽工事 ※H25発注工事 														
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">指標名</th> <th style="width: 33%;">実績値</th> <th style="width: 34%;">指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年10月末時点での工事進捗率</td> <td style="text-align: center;">100%</td> <td>主要工事の契約工期末(H25.10.31)</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			指標名	実績値	指標別コメント	平成25年10月末時点での工事進捗率	100%	主要工事の契約工期末(H25.10.31)						
指標名	実績値	指標別コメント													
平成25年10月末時点での工事進捗率	100%	主要工事の契約工期末(H25.10.31)													
担当課評価	評価区分	評価コメント													
	4	<p>計画に沿って、平成25年12月2日に開館することができた。このことにより、事業達成になり「4」と評価した。</p>													
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)															

施策名		図書館の整備・充実			点検評価表作成課		図書館		
施策の方向性		○利用者の多様なニーズに配慮しながら、図書館資料を収集、整備、保存し、蔵書の充実を図ります。 ○施設設備の老朽化による不具合を修繕するなど利用者にとって快適な環境づくりを進めます。 ○貸出し処理等の迅速化を図るなど利用者へのサービスを充実させ、利用者の拡大に努めます。							
施策に関連する主な取組		○図書館資料の整備・充実							
		○利用者へのサービスの充実							
		○読書活動の促進							
		○利用者の利便性向上のための施設設備の充実							
成果指標	指標名		資料貸出点数						
	指標の説明		平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値
	図書館4館の年間貸出点数の合計(資料とは、図書資料、視聴覚資料、雑誌の総合計とする。1年度3,000点の増とする)		712,427点	694,783点	658,686点				
			現状値 (平成22年度)		690,105点	→		目標値 (平成29年度)	
平成25年度重点施策		○読書推進事業							
平成25年度実績		○図書館資料の整備・充実 ・一般書から児童書まで、人気のある本や利用者の要望の多かった本を購入する一方、図鑑、事典など、最新の知見が掲載された基本図書も継続的に購入するなど、バランスの良い購入を図った。 ・DVD機器の一般家庭への普及に対応し、人気の高い視聴覚資料のビデオテープからDVDディスクへの移行を進め、利用者の継続的な利用に応えた。 ○利用者へのサービスの充実 ・平成25年度より平成27年度の3ヶ年契約にて窓口業務の民間委託を継続。窓口業務に当たる業務員に司書資格保持者を増員し、より専門性の高い利用者の要望に応えられる体制を整えた。 ○読書活動の促進 ・子ども読書活動推進協議会設置要綱を定め、「子ども読書活動推進計画」の組織的遂行の準備を整えた。 ・全館共通事業である「ブックスタート」「おはなし会」「えいが会」など乳幼児～小児対象の事業のほか、「読み聞かせボランティアステップアップ講座」「古典文学講座」などの専門性の高い講座や「夏季企画展」「文学歴史散歩」など、従来の図書館利用者以外でも参加しやすい事業を展開した。 ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実 ・深谷・岡部・川本各館において空調機器の不調箇所の修繕を行い、利用環境の改善を行った。 ・深谷・川本・花園各館の一部窓ガラスに遮光フィルムを貼付、蔵書の紫外線劣化を防ぐ措置を執った。 ・深谷館開架書架の閲覧用椅子のクロス張替を行い、閲覧環境の改善を図った。							
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題		図書館独自事業の推進と併行して、子ども読書活動推進協議会を中心とする、小・中学校、幼稚園及び保育園との連携体制を確立し、より多角的な視野から子どもたちの読書活動について調査・検討を進める必要がある。							
評価コメント		・子ども読書活動推進協議会については平成26年度に発足。連携・支援体制の確立を早急に進めたい。 ・図書資料の年間貸出件数が減少し、平成22年度の値を下回った。図書館利用者で最も少ないと思われるヤングアダルト世代の取り込みなど、新たな利用者開拓を進める必要がある。 ・図書館主催事業は総じて高評価を受けており、特に乳幼児～小児対象事業についてはリピーターを含め参加者の増加傾向が認められる。これらの事業を窓口に、子どもたちだけでなく、その保護者も含めて図書館利用者の開拓を更に進めていきたい。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言		・ブックスタートは、素晴らしい取組である。引き続き進めて欲しい。 ・子ども読書活動推進協議会の今後の活動を非常に期待している。効果を上げられるよう努力して欲しい。 ・年々貸出数が減少している。予算の問題はあると思うが、蔵書の充実を図り魅力ある図書館づくりをして欲しい。							

重点施策評価表

重点施策名	読書推進事業	担当課	図書館
概要	「子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの読書活動の支援策を検討・実施します。		
平成25年度 の実績	<p>・「子ども読書の日(4月23日)」に際し、市内91教育機関(12公民館、19小学校、10中学校、12公立幼稚園、2私立幼稚園、7公立保育園、29私立保育園)における啓発ポスターの掲示依頼を実施した。</p> <p>・市内6小学校および6中学校の協力を得て、小・中学生の読書活動に関するアンケート調査を実施、結果を図書館HPにて公開した。</p> <p>・「子ども読書活動推進計画」に基づく施策実施のため、深谷市子ども読書活動推進協議会設置要綱を定めた。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	ブックスタート参加人数 (絵本の読み聞かせと紹介)	1,064組	保健センターの協力を得て、4ヶ月児健診時に実施。保護者に乳幼児期からの読書の重要性を伝えるとともに、読み聞かせに対するわが子の反応を確かめてもらう貴重な機会となっている。
	おはなし会(えいが会を含む。)参加人数	1,722人	参加する母子ともに好評を得ている。利用者の要望にはきめ細かく対応しながら、更に良い内容で事業を推進していきたい。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	ブックスタート事業、おはなし会事業など従来事業の充実を図るとともに、子ども読書活動推進協議会を通じて小・中学校や幼稚園・保育園との読書活動に関する情報の共有、課題の分析を行い、子どもたちの読書活動を見守るための連携・支援体制を確立していきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標VI 深谷らしい文化の創造

VI-1

施策名		渋沢栄一翁の顕彰				点検評価表 作成課	文化振興課	
施策の方向性		○渋沢栄一翁の顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信します。 ○「渋沢栄一翁ゆかりの史跡」を整備し、その活用を推進します。						
施策に関連する 主な取組		○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信 ○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用						
指標名		渋沢栄一ゆかりの施設見学者数						
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	1年間における誠之堂・清風亭 及び中の家の見学者の合計	18,120名	15,421名	14,858名				
		現状値 (平成22年度)		15,000名	➡		目標値 (平成29年度)	

平成25年度 重点施策	○「論語の里」基本計画策定事業	
平成25年度 実績	○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信 ・富岡製糸場との関係性を調査し、富岡市と共同で「富岡製糸場と深谷の偉人たち」のパンフレットを作成し、配布した。 ・市ホームページ内の渋沢栄一ミュージアムをよりわかりやすくリニューアルし、情報の発信に努めた。 ・栄一塾や史跡めぐりを行い、渋沢栄一翁が考え実践した思想や実績について周知することができた。 ・講演会やパネル展示等を行い顕彰を行った。 ○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用 ・渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用について「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画を策定した。	
総合評価	B	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	富岡製糸場の世界文化遺産登録により、渋沢栄一、尾高惇忠、塙直次郎など深谷出身の偉人たちについて注目され、関連施設への見学者も増えている。市内外多くの方に周知する良い機会であり、計画的に事業を行う必要がある。	
評価コメント	「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画の策定や、講演会、パネル展示、ホームページなどで渋沢栄一翁とともに深谷出身の偉人についても発信できた。ただし、成果指標の実績値については、減少傾向にある。以上のことから、総合評価は「B」とする。	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一翁の顕彰について、様々な取組をされていると思うが、いかに市外の人達を呼び込むかをポイントに検討してみてもどうか。 ・富岡製糸場の世界遺産登録で渋沢栄一翁が注目されている。この機会を逃さずに、更なる検討をして欲しい。 ・深谷には、清風亭・誠之堂など、素晴らしい文化財が沢山ある。もっと宣伝し周知が必要である。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	「論語の里」基本計画策定事業		担当課	文化振興課
概要	渋沢栄一翁に関連する文化遺産を郷土の偉人たちの志とともに後世に伝えていくため、保存整備とさらなる活用に向けて基本計画を策定する。			
平成25年度 の実績	渋沢栄一翁に関連する施設及びエリアの保存活用計画として「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画を策定した。外部検討委員会及び庁内検討委員会を開催し、市民の方・学識経験者の方の意見を取り入れるとともに、各部署と現状・課題・これからの取組について協議し、計画の策定を行った。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	外部検討委員会の開催数	4回	計画的に開催し、意見を徴収することができた。	
	庁内検討委員会の開催数	6回	計画的に開催し、論語の里についての現状・課題を把握し計画を策定できた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	4	基本計画を計画的に策定できた。今後は取組内容の実現に向けて課題等を整理し実施していく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		伝統文化の保存・継承と活用						点検評価表 作成課	文化振興課
施策の方向性		○文化財の調査・記録化を実施するとともに、指定を通じ、保存のための措置を講じます。 ○各種イベントの開催を通じて、文化財を活用しながら、市内の伝統文化のすばらしさを伝えていきます。							
施策に関連する 主な取組		○文化財の調査、保護、管理と活用				○文化財保護思想の高揚			
		○埋蔵文化財の保護、保存							
		○民俗芸能の保存と継承							
		○文化財施設の整備・活用							
指標名		普及公開事業数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内で行う講演会、展覧会の年間開催数	10回	11回	9回					
		現状値 (平成23年度)		10回	➡	目標値 (平成29年度)		12回	

平成25年度 重点施策	○日本煉瓦保存活用計画策定事業	
平成25年度 実績	○文化財の調査、保護、管理と活用 ・古文書の調査を行った。 ・歴史講座を開催した。 ・幡羅遺跡保存に係る説明会を行った。 ○埋蔵文化財の保護、保存 ・各種開発に伴い、埋蔵文化財確認調査・発掘調査を行った。 ・保存目的の発掘調査を行った。 ○民俗芸能の保存と継承 ・無形民俗文化財の記録保存を行った。 ○文化財施設の整備・活用 ・川本出土文化財管理センターにて企画展を行った。 ・旧煉瓦製造施設の臨時公開を行った。 ・旧煉瓦製造施設保存活用計画策定事業を行った。 ・「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画を策定した。	
総合評価	B	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を整えて維持していくこと、旧煉瓦製造施設保存活用計画を策定して、その後の工事等を行っていくこと、幡羅遺跡の保存・活用の検討が大きな課題である。	
評価コメント	・開発に伴う確認調査、発掘調査等は円滑に対応できた。 ・幅広いテーマの歴史講座を開催し、多数の参加者があったが、本年度は、前年度より講演会や展覧会の実施回数が減少となった。 ・文化財施設の公開や旧煉瓦製造施設の臨時公開、企画展等の文化財を身近に感じられる事業を開催できた。 ・旧煉瓦製造施設保存活用計画策定事業、「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画の策定を予定通り行うことができた。 ・以上ことから、総合評価は「B」とする。	

意見・提言	・旧煉瓦製造施設の保存活用に向けて検討に着手したことは非常に評価できる。 ・教育委員会は、文化財の調査保存に熱心に取り組み努力している。 ・成果指標である講演会等の開催数が減って9回だったという理由で、総合評価を「B」とするのは厳しいと感じる。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	日本煉瓦保存活用計画策定事業		担当課	文化振興課
概要	重要文化財である旧煉瓦製造施設の保存・活用の基本方針をまとめ、これに必要な維持管理や修理、改修等を行うために、あらかじめ文化財としての価値を有する部分や、活用に資するために改変可能な範囲等を明確にした保存活用計画を策定する。			
平成25年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者選定(7月) ・検討委員会を設置した。(25年10月設置、委員8名) ・第1回検討委員会を開催した。(12月) ・第2回検討委員会を開催した。(3月) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画等検討委員会の開催	2回	検討委員会を設置、開催し、予定していた内容を検討することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成26年度に計画策定事業を完了し、平成27年度以降計画に基づく工事等を行っていく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		文化・芸術活動の活性化				点検評価表 作成課	文化振興課	
施策の方向性		○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充します。 ○文化団体等の自主的な活動の支援・育成を行います。 ○市にゆかりある美術品の収蔵と展示公開を進めます。 ○地域ゆかりの文化資源の活用を図ります。						
施策に関連する 主な取組		○文化・芸術活動の推進				○地域ゆかりの文化資源の活用		
		○地域における文化活動の連携と推進						
		○文化団体の育成						
		○美術品の収蔵・展示公開						
指標名		文化・芸術事業の参加者アンケートにおける事業の満足度						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	深谷市文化会館で開催するコンサート等の観客からアンケートを行い、「良い」と回答した割合	80%	97%	88%				
		現状値 (平成23年度)		80%	→		目標値 (平成29年度)	85%以上
平成25年度 重点施策		○子ども芸術文化推進事業						
平成25年度 実績		○文化・芸術活動の推進 ・アーティスト倶楽部を開催し、子どもたちが、美術・音楽・演劇などのさまざまな芸術や文化活動に触れることができた。 ・文化会館を利用し、クラシックコンサートを開催した。 ・次代を担う子どもの文化芸術体験事業を開催し、良質な文化芸術に触れることができた。 ○地域における文化活動の連携と推進 ・深谷市美術家協会と連携し、深谷市美術展入賞作品展を開催した。 ・NPOと協働し、優秀映画鑑賞事業の開催を行った。 ○文化団体の育成 ・深谷市文化団体連合会に補助金を交付し、文化・芸術活動の活性化を図った。 ○美術品の収蔵・展示公開 ・企画展「深谷市にゆかりのある人々～このひとをしていますか?～」と題し、市内でも今ではあまり語られる機会が少ない重要な活躍をした人たちの展示会を開催した。 ○地域ゆかりの文化資源の活用 ・文化遺産コンサートを開催した。						
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない				
課題		良質な文化・芸術事業の提供が必要であり、計画的にコンサートや企画展を行う必要がある。						
評価コメント		・企画展においても市内文化団体と協働し地域の文化を展示紹介できている。 ・子どもたちに対しても映画作成やミュージアムツアーなどを行い、良質な文化・芸術活動を提供できている。 ・各事業のアンケートにおいても「大変良かった・良い」との回答が88%となっている。実績値が前年度より低くなったが、目標値の85%以上を達成することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。						
意見・提言		・収蔵文化財や、新進気鋭のアーティストの作品などを、常時展示するような拠点施設があるとよい。 ・小学生や中学生が、身近に芸術や文化に触れられるよう常時展示できるスペースがあるとよい。						

重点施策評価表

重点施策名	子ども芸術文化推進事業	担当課	文化振興課
概要	<p>「なぜ」を追求する、ふるさとのことを深く知る、より良く生きるの三分野で「子ども大学ふかや」を実施。子どもたちが美術・音楽・演劇などのさまざまな芸術や文化に触れ、実際に体験することで創造性を豊かにし、柔軟な発想を育む機会の提供を目的とし「アーティスト倶楽部」を実施。</p>		
平成25年度 の実績	<p>・小学生を対象にした「子ども大学ふかや」や、小・中学生を対象にした「アーティスト倶楽部」を開催し、文化・芸術体験を展開した。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	子ども大学参加者数	123人	前年度より参加者数は減少した。
	アーティスト倶楽部実施回数	5回	例年並みに実施した。
	アーティスト倶楽部参加者数	149人	前年度より参加者数は減少した。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	市内文化団体や大学などと連携し効果的に事業を実施できた。	
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>			

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の環境整備						点検評価表 作成課	生涯学習課
施策の方向性		○利用者が安全かつ快適に利用できるよう、より一層の充実した管理・運営を行っていきます。 ○指導者の育成を通じ、スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備します。							
施策に関連する 主な取組		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ○指導者の養成							
指標名		社会体育施設における利用者数							
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	深谷市総合体育館、市民体育館、岡部B&G海洋センター(体育館)及び市営グラウンドの年間利用者数	343,112名	366,840名	357,664名					
		現状値 (平成22年度)		374,462名	目標値 (平成29年度)		380,000名		
平成25年度 重点施策		○市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化							
平成25年度 実績		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ・平成24年度より、受付時間の拡大を実施 ・平成24年度利用者実績 366,840名 ・平成25年度利用者実績 357,664名(9,176名減) ・川本グランドゴルフ場に倉庫建設 ・岡部中央グラウンド土留設置工事 ・深谷市民体育館バスケットボールコートライン変更工事 ・深谷市総合体育館受電設備真空遮断器及び過電流継電器更新工事 ・深谷市総合体育館トイレ改修工事 ○指導者の養成 ・スポーツ少年団の認定員研修会を実施(参加者97名) ・「ジュニアスポーツ指導者講習会」の実施(全3日間:113名)							
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題		経年による劣化により、施設修繕が多くなってきている。川本天神グラウンドテニスコートは、耐用年数もかなり経過しており、全面張替えの大規模改修が必要である。							
評価コメント		・年間利用者数は、平成24年度と比較し、大雪などの天候により平成25年度は減少してしまったが、利用貸出しにおいて大きなトラブルもなく対応できた。 ・施設の修繕箇所数も年々増加傾向にあるが、限られた予算のなかで、適切に対応出来た。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言		・スポーツ・レクリエーション施設の整備は計画的に進められており評価できる。 ・年間利用者数が昨年度より減少している。大雪によるマラソン大会中止や公共施設の臨時休館などが理由とのことでやむを得ないことではあるが、今後も市民にとって利用しやすい施設になるよう取り組んで欲しい。							

重点施策評価表

重点施策名	市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化		担当課	生涯学習課
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・業務委託(シルバー人材センター)による毎月2回の全市営グラウンド(7箇所)の確認・清掃業務を実施 ・市職員による毎朝の市民体育館の点検・巡視の実施 			
平成25年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市営グラウンド確認管理業務委託(深谷市シルバー人材センター) 			
	指標名		実績値	指標別コメント
	市営グラウンド確認回数	22回	専属職員による確認管理業務のため、細部の状況が点検できた。	
	職員による市民体育館の点検・巡視	勤務時毎日(240回)	日々の変化が確認できたため、利用者の事故防止に繋がった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	業務委託による市営グラウンド(7箇所)の定期的な点検業務を実施することで、細部にわたる状況確認が出来た。また、毎朝の市職員による市民体育館の点検により、利用者の事故防止ができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	点検評価表 作成課	生涯学習課
施策の方向性	○スポーツ・レクリエーション団体やスポーツ推進委員を核に、本市の地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。 ○多くの市民がスポーツ・レクリエーション大会・教室等へ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図ります。		
施策に関連する主な取組	○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ○スポーツ推進委員との連携の強化		

指標名	スポーツ・レクリエーション活動の活性化							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団並びに市が主催した大会・教室の年間参加者数	28,322名	30,688名	33,584名				
		現状値 (平成22年度)	21,702名		目標値 (平成29年度)	23,000名		

平成25年度重点施策	○スポーツ教室・イベント開催事業	
平成25年度実績	○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ・「第8回ふかやシティハーフマラソン」の開催を予定していたが、大雪のため中止となった。 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ・体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団に加盟している団体主催の各種大会等に対し、市民へ広報及びホームページを活用した情報提供の実施など支援を行った。 ○スポーツ推進委員との連携の強化 ・ランニング講習会、ウォーキング講習会、ジュニアスポーツ指導者講習会を実施した。	
総合評価	S	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	多様化・高度化するスポーツ・レクリエーションへのニーズに応えるため、指導者を養成し、活用を図っていく必要がある。指導者の絶対数が不足している状況となっている。	
評価コメント	・本市の代表的な事業である「第8回ふかやシティハーフマラソン」の開催を予定し、全国から6,300名を超える参加エントリーがあり、第7回大会を上回るエントリーであった。しかし、大会直前の記録的な大雪により、大会中止となってしまった。 ・成果指標である「体育協会をはじめとする各種団体及び市が主催した大会・教室の年間参加者数」についても、前年度と比較し増加した。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。	

意見・提言	・市主催の大会や教室の参加者数は年々増えており評価できる。 ・平成25年度の参加者数は、成果指標における平成29年度の目標値を10,000人も上回っており、素晴らしい。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	スポーツ教室・イベント開催事業		担当課	生涯学習課
概要	全国のランナーを対象とし、市民がスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加する機会の充実を図るため、ふかやシティハーフマラソンを開催する。			
平成25年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回ふかやシティハーフマラソンエントリー 6,336名 ・体育協会(所属団体)主催大会 11,524名 ・レクリエーション協会(所属団体)主催大会 3,985名 ・スポーツ少年団(所属団体)主催大会 11,220名 ・市民軽スポーツ教室、ランニング講習会、ウォーキング講習会、ジュニアスポーツ指導者講習会等 519名 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団、各種教室、講習会の年間参加者数	33,584名	各種大会、教室等の参加人数が増加した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	第8回ふかやシティハーフマラソンは記録的大雪のため、大会直前に中止となってしまったが、第7回大会を上回るエントリー(6,336名)があった。体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団等の主催する大会、教室等の参加人数も増加した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

6 結びに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

平成26年度の点検評価では、深谷市教育振興基本計画の25施策すべてを対象に、平成25年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、25施策中、4施策に対して総合評価「S」（計画以上に進んでいる）と、19施策に対して総合評価「A」（ほぼ計画通りに進んでいる）と評価することができましたが、2施策に対して総合評価「B」（あまり進んでいない）となりました。

今後も、社会情勢の変化を踏まえながら、深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に推進していくとともに、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

最後に、今回の点検評価を行うにあたり、その客観性を確保する観点から、次の点検評価者にご意見及びご提言をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。

倉上 武雄	深谷市社会教育委員
篠原 善廣	立正大学法学部非常勤講師

なお、施策ごとの総合評価及び点検評価者のご意見及びご提言の要旨を次のとおり一覧で示します。

施策名	総合 評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
I- (1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	S	子育て広場の実施について評価されましたが、幼稚園全園での実施が課題であると指摘されました。	4
I- (2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	A	深谷市チャレンジ及び中学生補習学習(ステップアップレッスン)の実施が評価されました。	6
I- (3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	A	ALTの配置、文部科学省の研究委嘱及び日本語指導員の市費配置が評価されました。	10
I- (4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	A	コンピュータの整備状況、風力・太陽光発電啓発授業及び校務支援システムの運用が評価されました。タブレット端末を利用した情報教育の推進について提言を受けました。	14
I- (5) 高い志をもつキャリア教育の推進	A	社会体験チャレンジの実施及び中高連絡協議会の実施が評価されました。	16
I- (6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	A	通常学級に在籍する障害のある児童生徒への個別指導計画の作成、通級指導教室におけるiPadの活用及び小・中連携巡回相談が評価されました。	18
II- (1) まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	A	「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品数の増加及び市独自の「渋沢栄一ころごし読本」の活用などの心の教育の充実が評価されました。	22
II- (2) いじめ・不登校の防止	S	「深谷イーネット」専門相談ダイヤルの開設、不登校児童生徒の割合の減少、学校総合支援員の市費配置などの積極的な取組が評価されました。	26
II- (3) 生徒指導の充実	A	児童生徒の暴力行為の発生件数の減少及びスクールライフサポーターの市費配置が評価されました。スマートフォンを利用したいじめに関して行政レベルでの対策の有効性について提言を受けました。	28
II- (4) 人権を尊重した教育の推進	A	様々な研修会による教員の人権感覚の向上が評価されましたが、情報モラル教育への各家庭の関わり方について課題が指摘されました。	30
II- (5) 健康の保持増進	A	朝食を毎日必ず食べる児童生徒の割合が向上した点及び自校式給食の推進が評価されましたが、朝食欠食家庭への対応の必要性を指摘されました。	32
II- (6) 体力の向上と学校体育活動の推進	A	武道の授業において怪我人が出なかったこと及び「50m走にチャレンジ」の実施が評価されましたが、新体力テストの結果における下位ランクの児童生徒の底上げが課題として指摘されました。	34

施策名	総合 評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
Ⅲ－(1) 信頼される教職員の育成	A	学校総合支援員の市費配置、学校問題サポートチームの設置及び教育研究所の教員支援が評価されました。若手・中堅・ベテランの教員の混成の研修の必要性について提言を受けました。	36
Ⅲ－(2) 子どもたちの安心・安全の確保	S	緊急地震速報を活用した避難訓練の実施、緊急連絡サイトの設置及びスクールガードリーダーの充実が評価されましたが、各学校における防犯に関する情報の共有化などについて課題を指摘されました。	40
Ⅲ－(3) 学習環境の整備・充実	A	幼稚園保育室へのエアコンの設置など教育環境の計画的な整備が評価されました。地理系・科学系の図書滞りない更新について提言を受けました。	42
Ⅳ－(1) 家庭の教育力の向上	A	家庭教育学級の実施が評価されましたが、会場、開催日時等の工夫による参加者数の向上が課題として指摘されました。	44
Ⅳ－(2) 地域の教育力の向上	A	地域の特性を反映した学校応援団の活動が評価されました。活動の発展を図るため基本的なガイドラインの制定について提言を受けました。	46
Ⅴ－(1) 学習機会の提供と学習活動の支援	A	ふかや市民大学の受講者の満足度の高さ及び子ども体験学習の実施が評価されました。	50
Ⅴ－(2) 活動施設の整備・充実	A	財政状況等を考えると将来的に各公民館の維持管理が大変になると考えられるため、ボランティアの活用などの対策の検討について提言を受けました。	52
Ⅴ－(3) 図書館の整備・充実	A	ブックスタート及び子ども読書活動推進協議会の設置準備が評価されました。貸出点数の減少対策として、蔵書の充実による魅力ある図書館づくりについて提言を受けました。	54
Ⅵ－(1) 渋沢栄一翁の顕彰	B	清風亭・誠之堂などの文化財の更なる宣伝・周知と、市外の見学者の呼び込みが課題として指摘されました。	56
Ⅵ－(2) 伝統文化の保存・継承と活用	B	旧煉瓦製造施設の保存活用に向けた検討への着手など文化財の調査保存への取組が評価されました。	58
Ⅵ－(3) 文化・芸術活動の活性化	A	収蔵文化財などを常時展示できる施設について提言を受けました。	60
Ⅶ－(1) スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	A	スポーツ・レクリエーション施設の計画的な整備が評価されましたが、年間利用者数の減少が課題と指摘されました。	62
Ⅶ－(2) スポーツ・レクリエーション活動の活性化	S	市等が主催した大会・教室の年間利用者数が増加している点が評価されました。	64

立志と忠恕の深谷教育プラン【概要】

（深谷市教育振興基本計画）

計画期間 平成24年度～平成29年度

◆ 計画策定の趣旨

平成18年に教育基本法が改正され、国は教育の振興に関する計画である「教育振興基本計画」を平成20年に策定しました。また、地方公共団体にもこの計画の策定について努力義務が課され、埼玉県では平成21年に「埼玉県教育振興基本計画」を策定しています。

本市はこれまでも、深谷市総合振興計画に基づいて教育行政に関する施策を展開してきましたが、教育基本法の趣旨に鑑み、中・長期的視点から取り組むべき施策の体系を明らかにし、深谷市教育の進むべき方向を明確にするために「教育振興基本計画」を定めるものです。

◆ 計画の位置づけ

本計画は、国の教育振興基本計画及び埼玉県教育振興基本計画との整合性を図りつつ、教育基本法第17条第2項に基づいた、教育振興のための施策に関する基本的な計画です。

また、深谷市総合振興計画を踏まえた、教育行政分野における計画として位置づけます。

◆ 計画期間

平成24年度から平成29年度までの6年間とします。

◆ 基本理念

子どもたちの自立と成長を保障する「生きる力」をもった子どもたちを育て、また、市民一人一人の学びを通じた絆づくりと活力あるコミュニティを形成するため、郷土の偉人である渋沢栄一翁が生涯を通じて大切にした「立志の精神」と「忠恕のこころ」を受け継ぐ教育に取り組むことが重要であると考え、次の基本理念を掲げます。

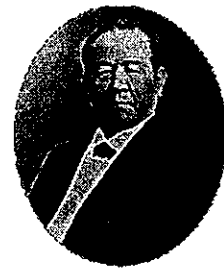
「立志と忠恕の深谷教育」

こころざし

～ふるさとを愛し、夢をもち 志高く生きる～

～立志（りっし）と忠恕（ちゅうじょ）～

立志は「夢をもち志高く生きること」を、忠恕は「まごころ・おもいやり」を意味することばで、渋沢栄一翁が生涯貫いた思想であるといわれています。渋沢栄一翁は経済人としての活動のほか、国際交流や社会福祉事業などにも生涯をかけて情熱を注ぎました。



◆ 基本方針

基本理念を踏まえ「市民一人一人が生涯にわたり学んでいく」上での施策を実施していくにあたって、次の5つの基本方針で取り組みます。

■ 学校教育の観点から

知：確かな学力をそだてる

徳：豊かな心をはぐくむ

体：健やかな体をそだてる

■ 生涯学習の観点から

夢：夢をはぐくむ

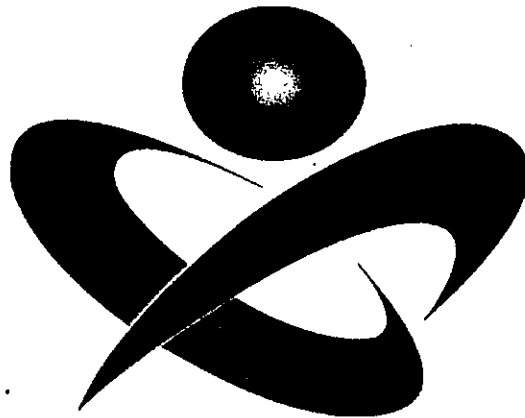
絆：絆をふかめる

◆ 基本目標と施策、主な取組

本計画の基本理念及び基本方針を踏まえ、今後6年間（平成24年度～平成29年度）に取り組む教育施策の7つの基本目標と、その7つの目標にぶら下がる25の施策及び102の主な取組を次の施策体系のとおり設定し、計画を推進していきます。

推進にあたっては、深谷市の将来都市像「夢を育み明日に飛翔する 笑顔都市ふかや」の実現に向けて、関係機関、自治会など各種団体、各学校との連携を図り、全市的に取り組んでいきます。また、計画を効果的に、かつ着実に実施するために、PDCAサイクルに沿って行っていきます。

平成25年度
深谷市教育委員会重点施策



深谷市教育委員会

平成25年度 深谷市教育委員会重点施策

深谷市教育委員会は、深谷市教育振興基本計画の基本理念である

「立志と忠恕の深谷教育」 ～ふるさとを愛し、夢をもち志高く生きる～

を踏まえ、7つの基本目標の施策ごとに重点的な取組を掲げ、教育行政を総合的に推進します。

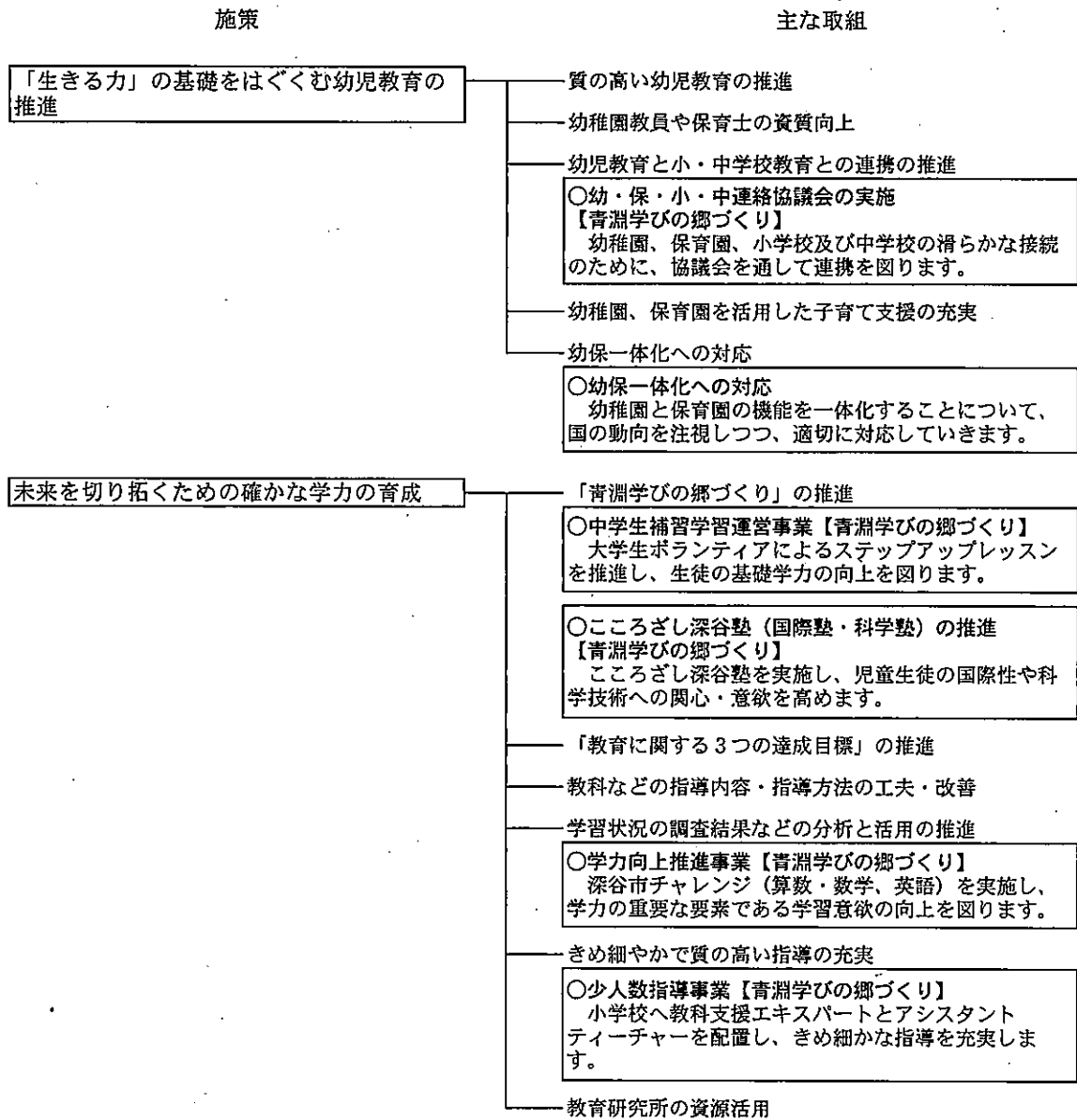
基本目標

- 1 社会を生き抜く力の育成
- 2 たくましく生きるための心と体の育成
- 3 信頼される学校教育の推進
- 4 家庭・地域の教育力の向上
- 5 生涯を通じた学習活動の推進
- 6 深谷らしい文化の創造
- 7 生涯を通じたスポーツ・レクリエーション活動の推進

この施策は、深谷市教育振興基本計画のほか、深谷市総合振興計画、埼玉県教育行政重点施策等を踏まえ策定したものであり、実施にあたっては、関係機関、各種団体等と連携を図るとともに、広く市民の理解と協力を得ながら、積極的に推進いたします。

深谷市教育振興基本計画 施策体系

Ⅰ 社会を生き抜く力の育成



郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進

- 伝統と文化を尊重する教育の推進
- 国際性を育む教育の推進
 - 国際化教育推進事業【青淵学びの郷づくり】
全小・中学校に外国語指導助手（ALT）を配置し英語教育等の充実を図ります。
- 小学校段階からの外国語活動の推進
 - 教育研究開発（英語教育関係）の推進【青淵学びの郷づくり】
小学校3年からの早期外国語教育を推進し、児童生徒の国際性を育みます。
- 帰国・外国人児童生徒等への教育の充実

夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進

- 科学技術教育の推進
- 情報教育の推進
 - 小・中学校ICT整備事業【青淵学びの郷づくり】
ICT環境の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の向上を図ります。
- 環境教育の推進
 - 風力・太陽光発電啓発事業【青淵学びの郷づくり】
理科の時間を中心に、風力・太陽光について体験的な学習を行い、自然エネルギーへの理解を深めます。
- 社会的課題に対応する教育の充実

高い志をもつキャリア教育の推進

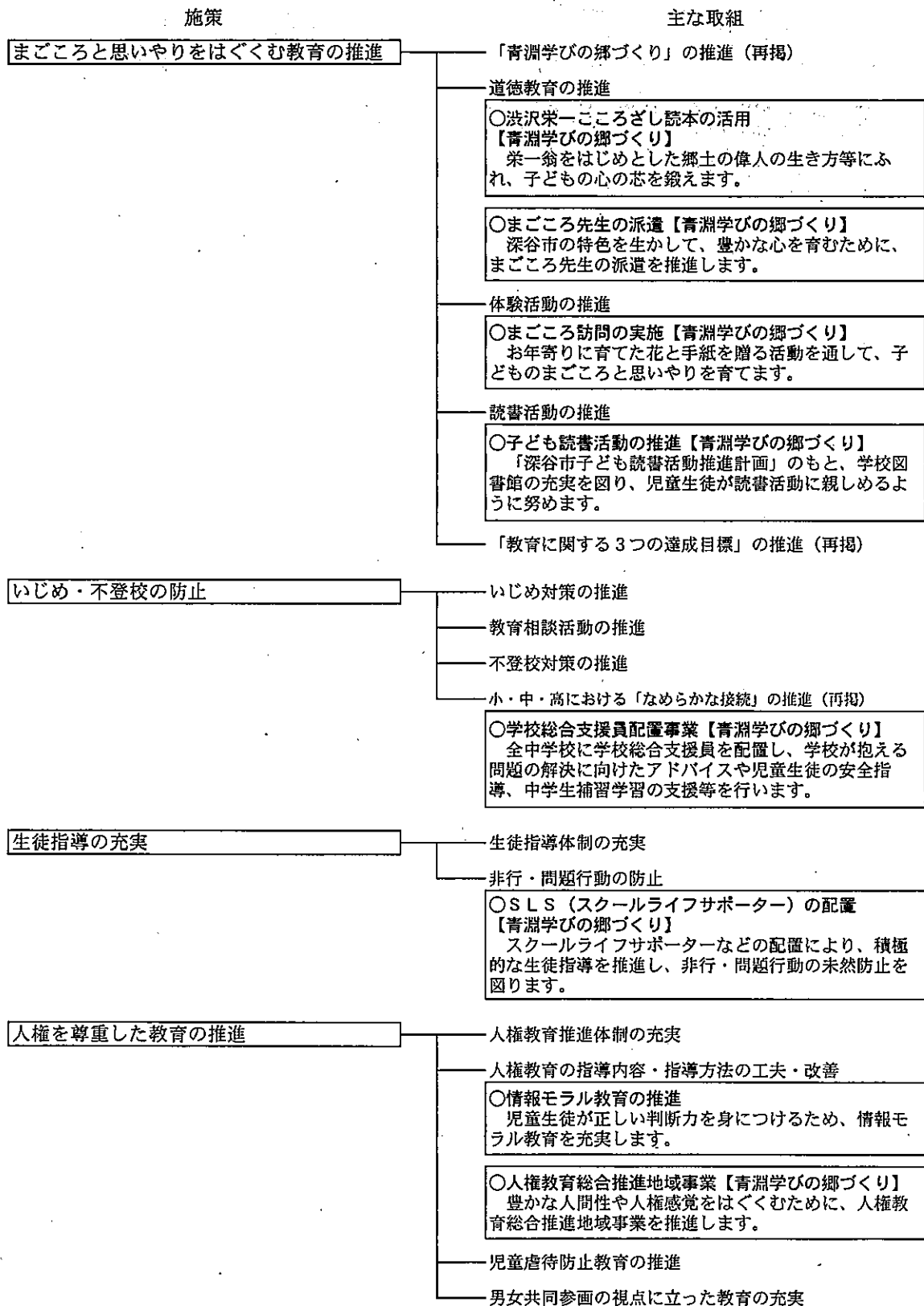
- 発達段階に応じたキャリア教育の充実
 - 小・中学校のキャリア教育の充実【青淵学びの郷づくり】
小学校の職業にふれる体験や中学生の職場体験などを実施し、望ましい職業観・勤労観を育成します。
- 小・中・高における「なめらかな接続」の推進
- 職場体験活動の充実

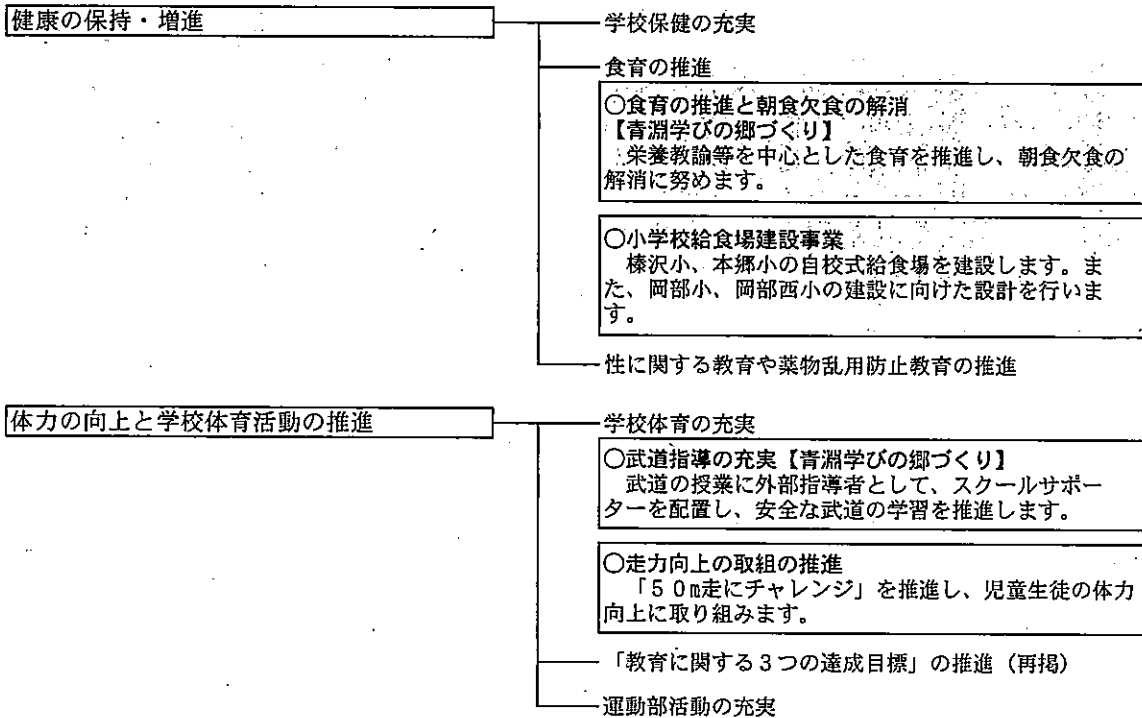
児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

- 特別支援教育体制の整備・充実
- 就学支援・相談の充実
- 特別支援教育の視点に立った指導の充実
 - 特別支援教育事業【青淵学びの郷づくり】
特別支援補助員を配置し、特別支援教育の視点に立った指導の充実を図ります。
 - ふっかちゃんi（愛）サポート事業【青淵学びの郷づくり】
学習支援の教具としてiPadを整備し、個に応じた多様な学びが実現できるようにします。
- 特別支援補助員の活用
- 他機関との連携
 - 教育福祉連携推進会議【青淵学びの郷づくり】
学校・園と関係各課との役割を明確にし、協働体制を整備し、虐待や不登校の解消に努めます。
- 支援籍学習の推進
- 教育研究所の機能の充実
 - 巡回相談の充実【青淵学びの郷づくり】
福祉相談員や専門員等による巡回相談を定期的に実施し、校内支援体制を整え、幼児、児童生徒への早期支援、早期対応に努めます。

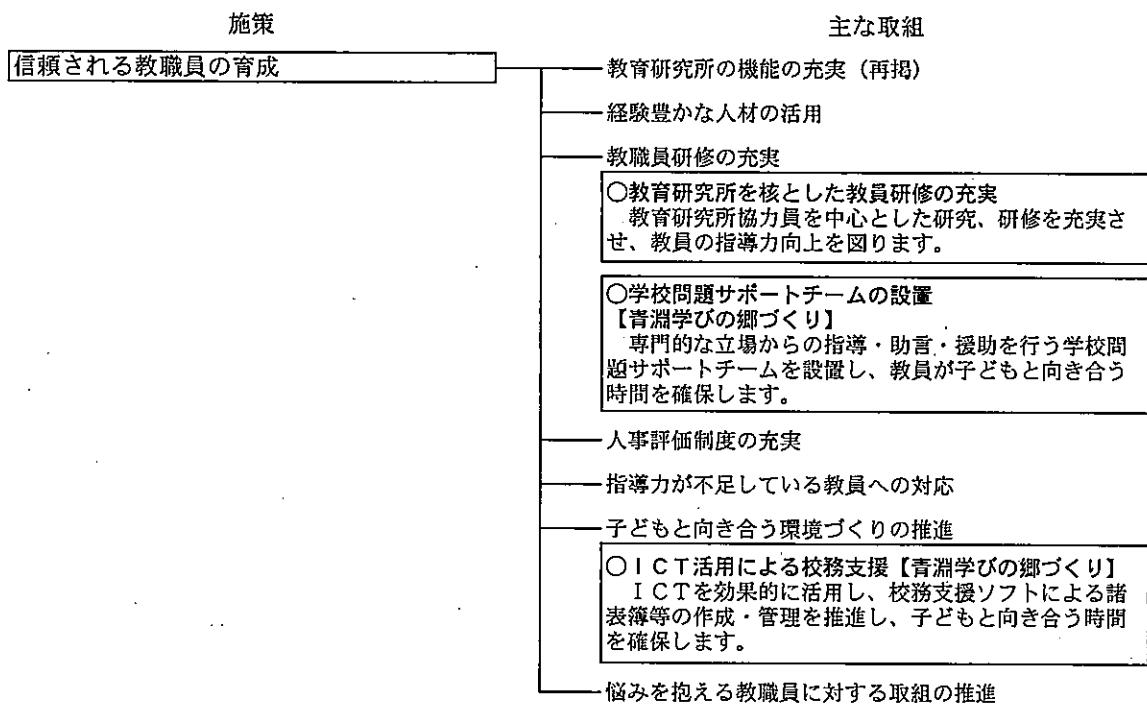
※【青淵学びの郷づくり】は、洪沢栄一翁の心を受け継ぐ事業の総称です。

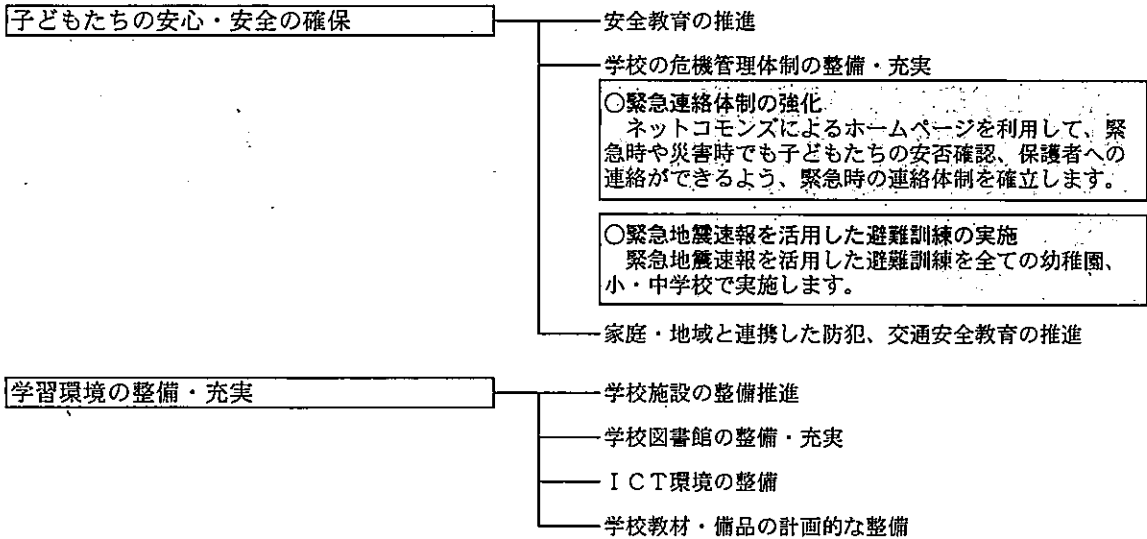
II たくましく生きるための心と体の育成



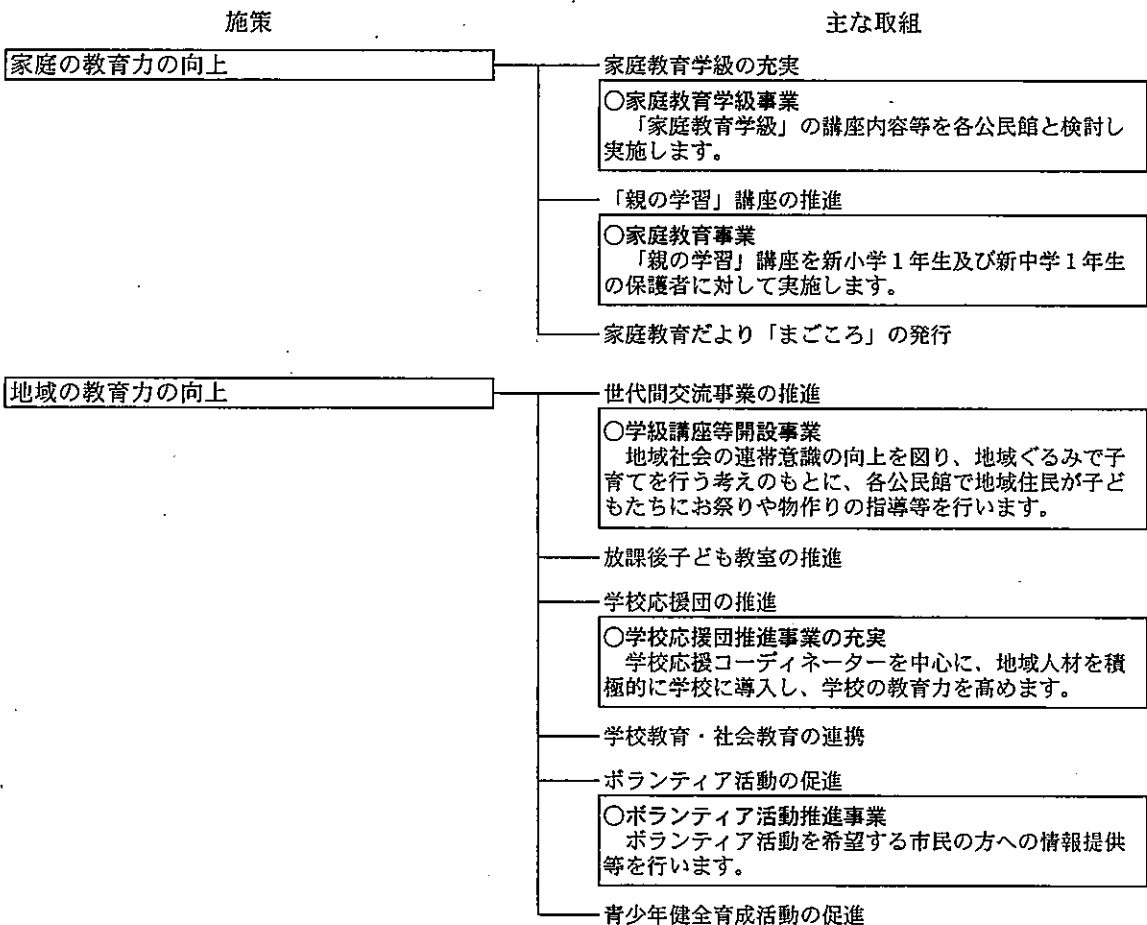


III 信頼される学校教育の推進

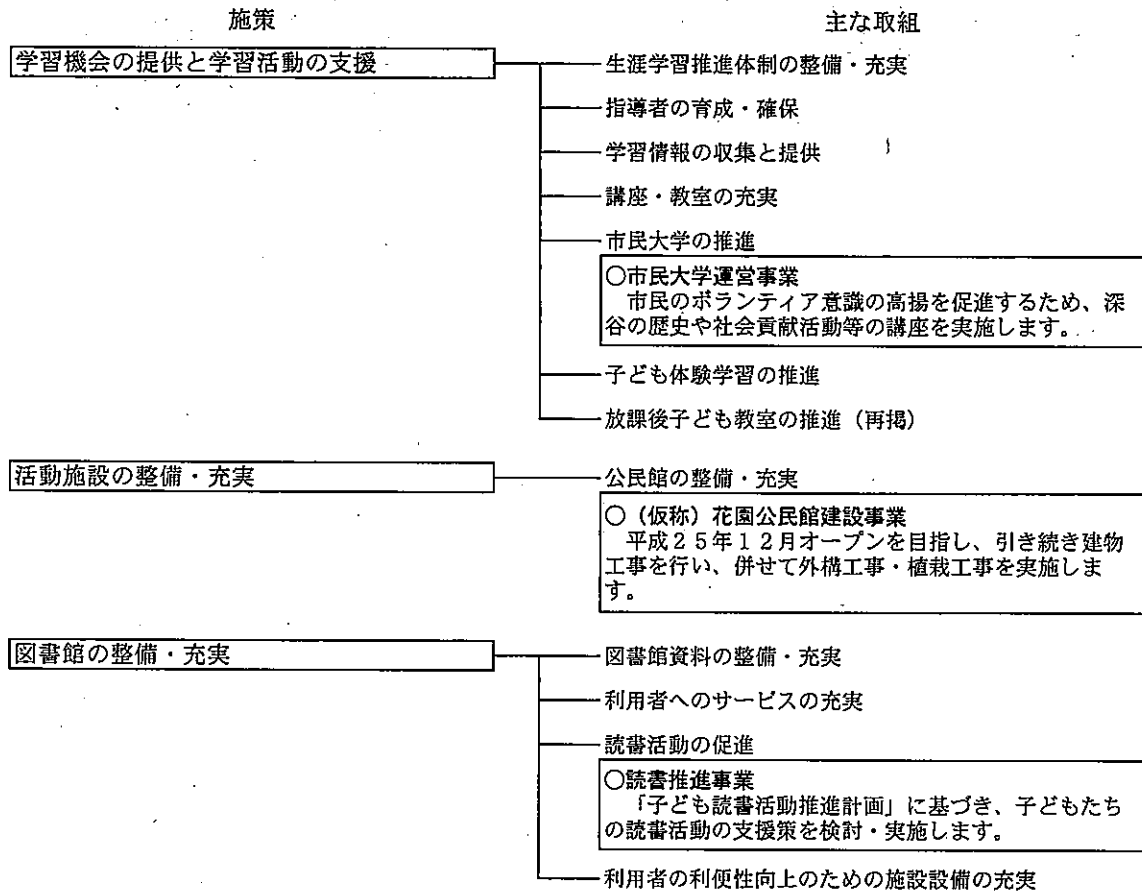




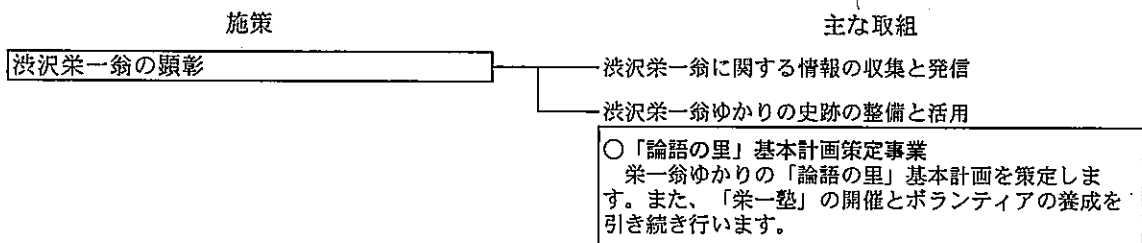
Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

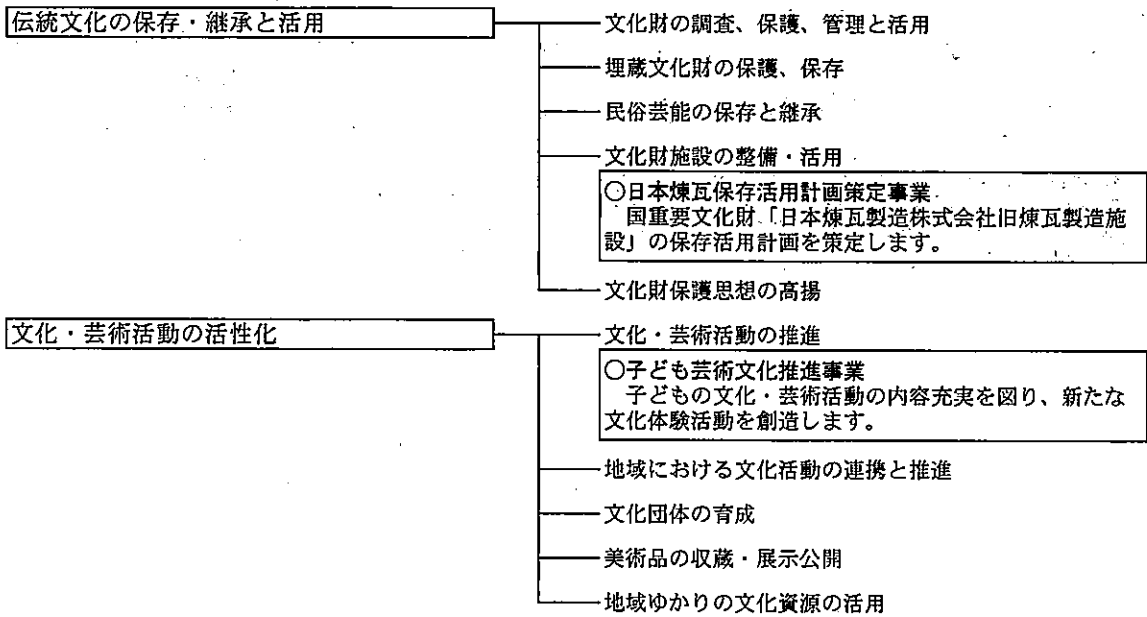


V 生涯を通じた学習活動の推進

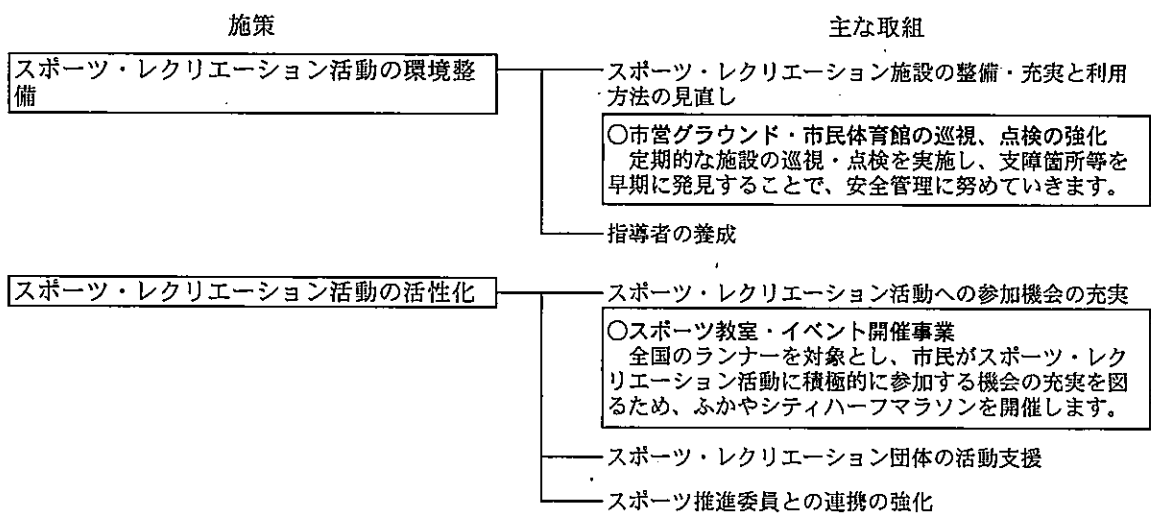


VI 深谷らしい文化の創造





VII 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進



平成 26 年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発行 平成 26 年 11 月
編集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 17-3

TEL 048-574-5811

FAX 048-574-1744



